

文教常任委員会資料

令和7年10月16日
(2025年)
教育委員会事務局学校教育課

令和7年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の結果につ
いて

標記の件について、次のとおり報告します。

令和7年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の結果について

1 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の目的

- (1) 学習活動の実現状況及び学習環境や家庭生活の状況等の有用な情報を把握・分析することにより、個別最適な学びと協働的な学びを推進するための教員の指導力向上と授業改善に役立てる。
- (2) 1人1台端末を用いたC B T調査《I R T（項目反応理論）》により、データ集約の効率化や指導の早期化を目指すとともに、平均点との比較ではなく、児童生徒が自身の「学力の伸び」や「非認知能力の変容」を継続的に把握し、実感することで学ぶ意欲の向上を図る。

2 概要

- (1) 実施日時：令和7年5月19日（月）～5月29日（木）
- (2) 実施対象学年
 - ア 小学校（4年生・5年生・6年生）
 - イ 中学校（1年生・2年生・3年生）
- (3) 問題内容及び問題数
 - ア 国語、算数・数学
英語（中学2年生・3年生）
 - イ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

3 結果の活用

- (1) 各学校においては、調査結果から「学力の伸び」と「非認知能力の変容」を分析・考察するとともに、継続的に把握し、児童生徒一人一人への指導支援の改善に向けて計画的に取り組む。
- (2) 城陽市教育委員会においては、調査結果を踏まえ、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、市内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を推進する。

4 結果の概要

小学校は4年生から6年生の3学年とも算数では府平均を上回ったが、国語では府平均を下回る結果だった。下回った国語においても、昨年度の府平均との差が縮まっており、小学校は市全体として学力の向上傾向が見られる。課題は読書離れである。「読書は好きだ」という設問に対して（当てはまる・どちらかと言えば当てはまる）と肯定的に回答した児童の割合が昨年度よりも低くなった。また、同質問に対して肯定度が低い学校においては、国語の「読むこと」の領域の正答率が低いことが分かった。国語の正答率に課題が表れた小学校においては読書活動の推進が求められる。

中学校は1年生の国語と3年生の数学のみ府平均を下回ったものの、それ以外では府平均を上回る結果となった。また、下回った3年生の数学も昨年度の2年生の数学の平均比 $\Delta 1.7$ ポイントから $\Delta 0.9$ ポイントまで縮める結果となっている。中学校は市全体として大きく学力の向上が見られる。

市内全体として学力向上が見られるが、家庭で学習する習慣が不十分な児童生徒の割合が昨年度同様に高い。家庭学習を習慣づける取組が強く求められる。

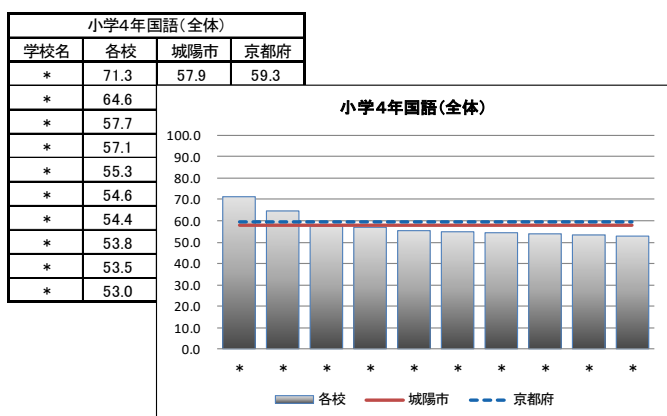
5 各教科の結果

(1) 国語／小学4年

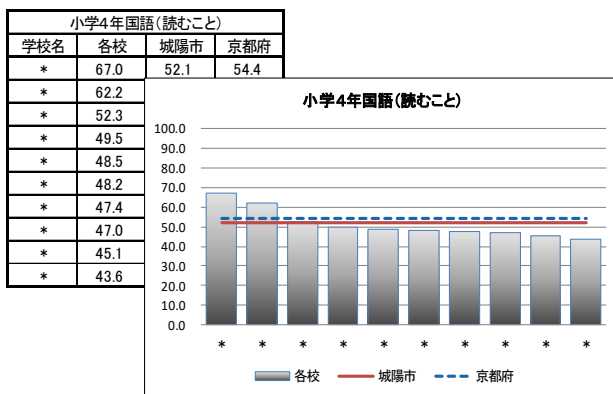
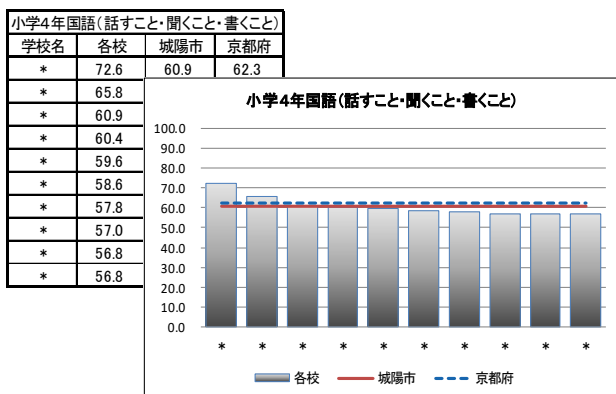
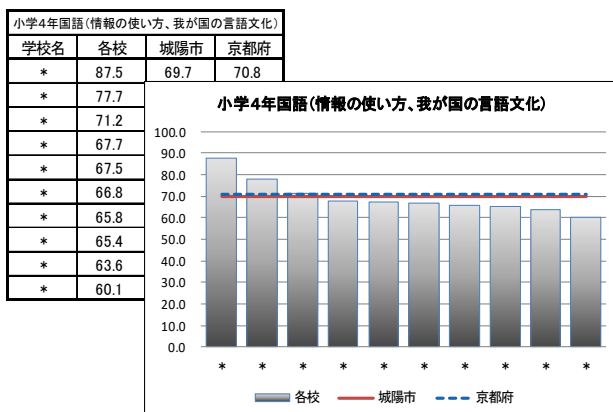
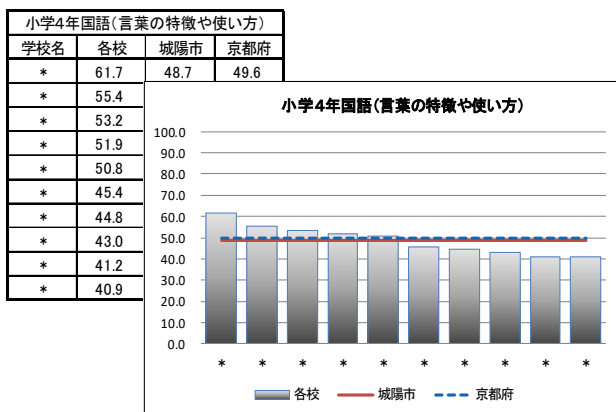
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、1.4ポイント下回りました。「読むこと」の領域では府平均比が△2.3ポイントと課題が見られます。「読む力」を伸ばすためには、様々な文章に触れる機会の確保が必要です。各校が作成している読書活動推進計画の具体的な実現が求められます。
- ・「話すこと・聞くこと・書くこと」の領域で平均を下回る学校が多いです。本領域の力を伸ばすためには、内容の要点をおさえる習慣づけが必要です。グループ活動やプレゼンテーションなどの活動で、まとまりを意識しながら内容を整理する活動の充実が求められます。

<結果の状況>

【全体の結果】



【領域別の結果】

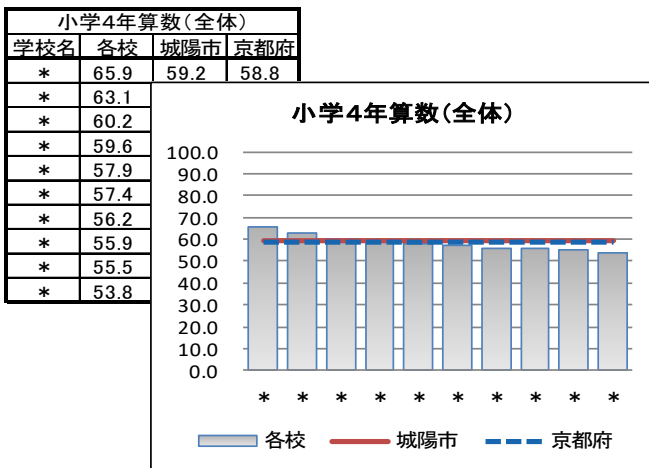


(2) 算数／小学4年

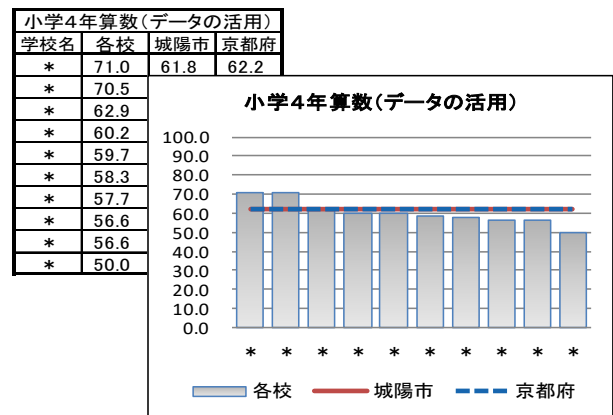
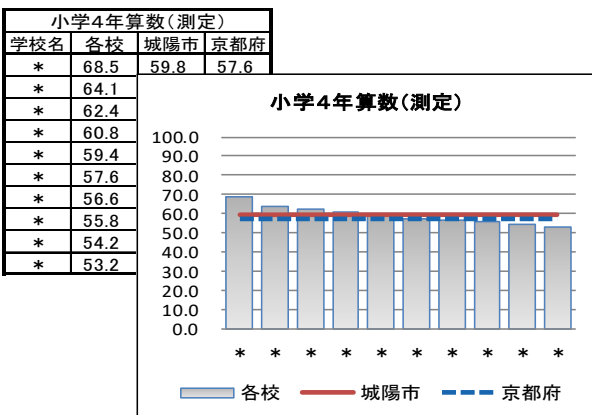
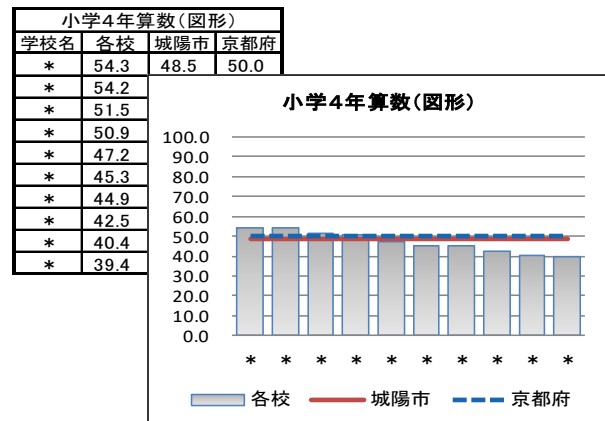
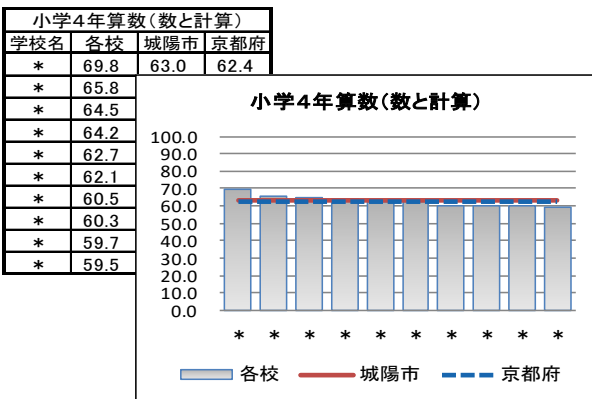
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.4 ポイント上回る結果となりました。基礎技能である「数と計算」の領域では府の平均点を 0.6 ポイント上回りました。基礎基本の定着はできていると見られます。今後、小数や分数などを用いた複雑な計算を正確にできる力が求められますので、引き続き子どもの数量感覚や計算力を向上させる取組が必要です。
- ・「図形」「データの活用」では定着が不十分な状況が見られます。物事の仕組みや定義について理解するための言語活動を充実させる授業の展開が求められます。

<結果の状況>

【全体の結果】



【領域別の結果】

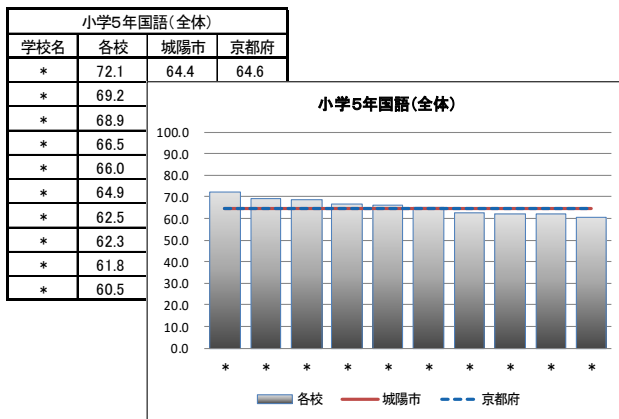


(3) 国語／小学5年

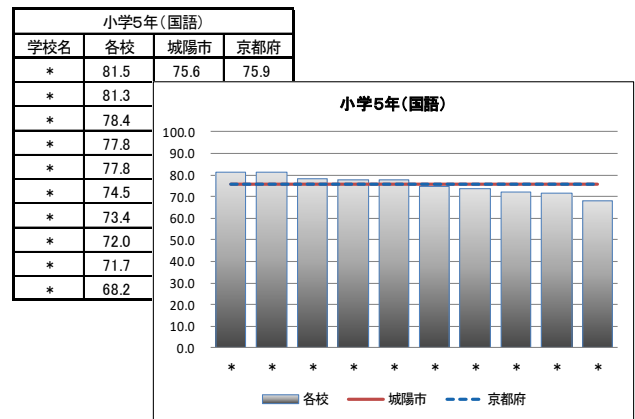
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.2ポイント下回りましたが、府平均とほぼ同程度です。昨年度4年生時は府平均比△0.4ポイントでした。
- ・「領域別の結果」においては、「言葉の特徴や使い方」と「読むこと」に課題が見られます。漢字や文法などの基礎基本の定着を図ることが求められます。また、読書量を増やすことで語彙を広げること、内容を的確に読み取る力を育むことが必要です。

<結果の状況>

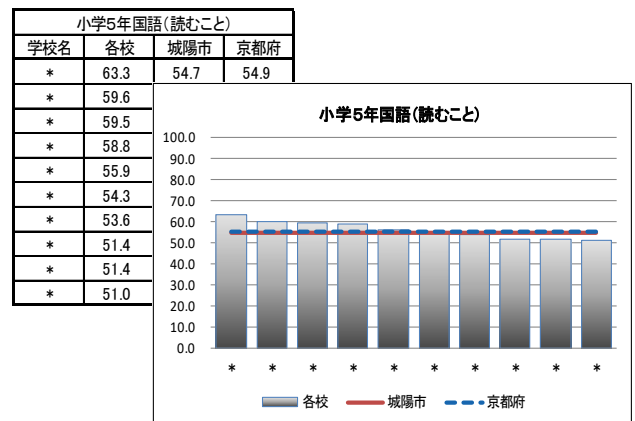
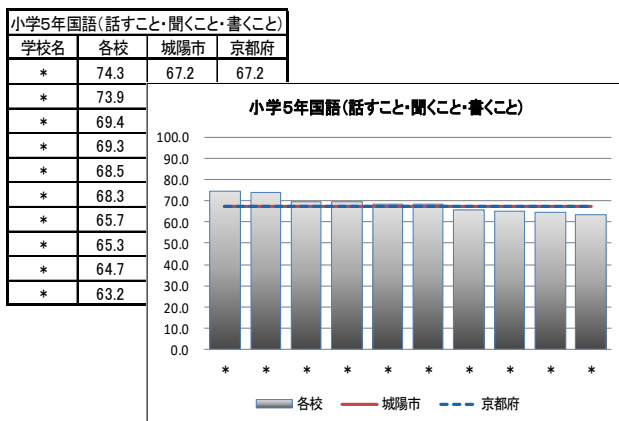
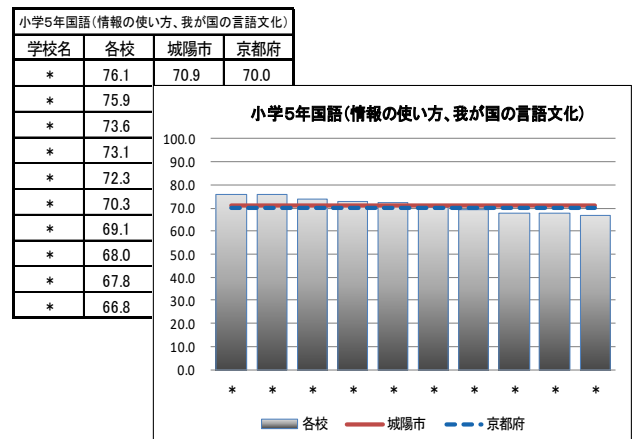
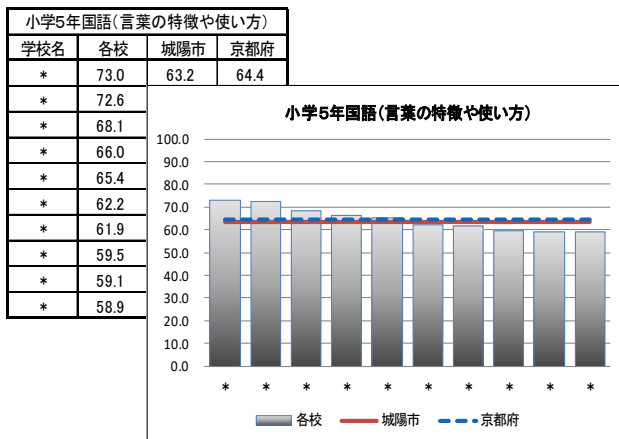
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】

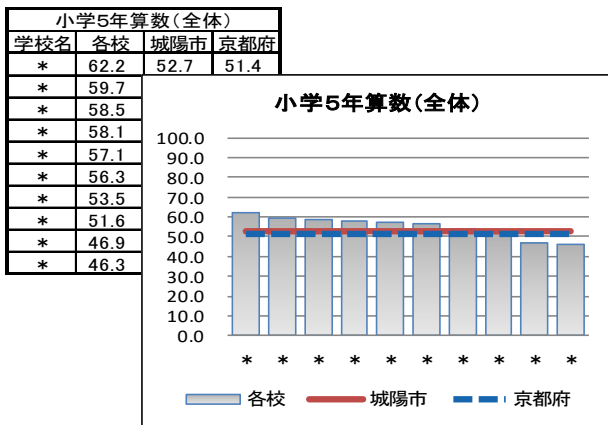


(4) 算数／小学5年

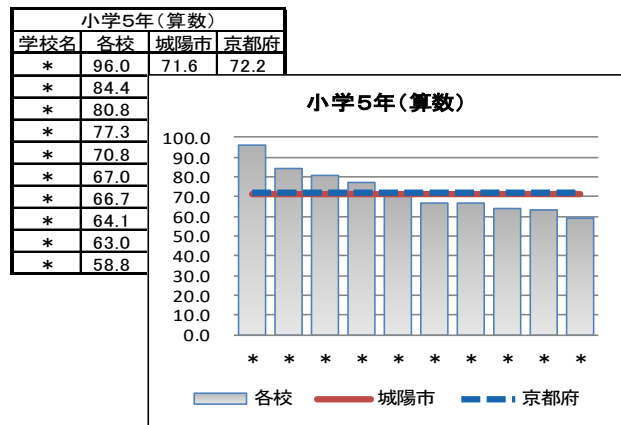
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、1.3ポイント上回りました。市内小学校の10校中8校が府の平均を超えています。
- ・「領域別の結果」において、全ての領域で京都府の平均を上回りました。
- ・「図形」の領域では定着が不十分な状況が見られます。それぞれの図形の定義と性質などについて理解するための言語活動を充実させる授業の展開が求められます。

<結果の状況>

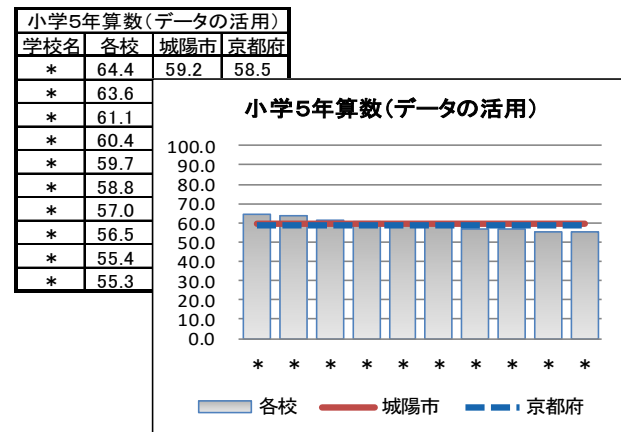
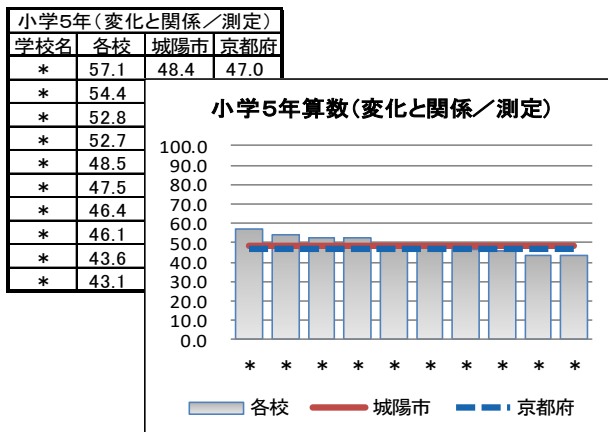
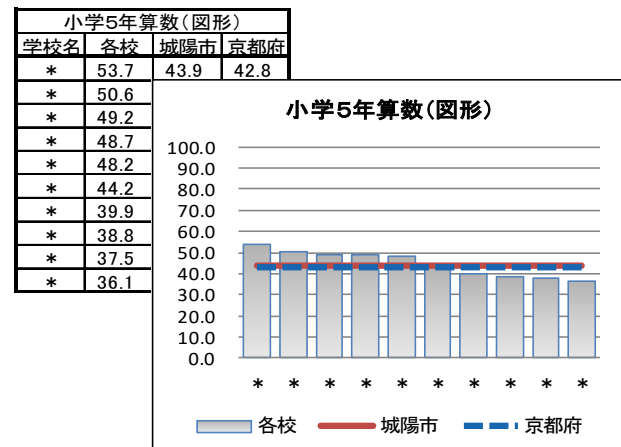
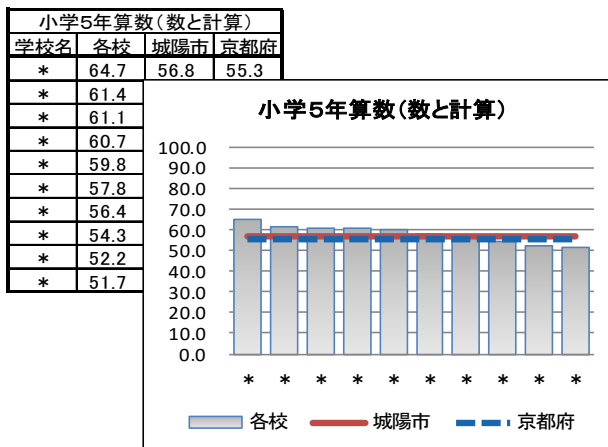
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】

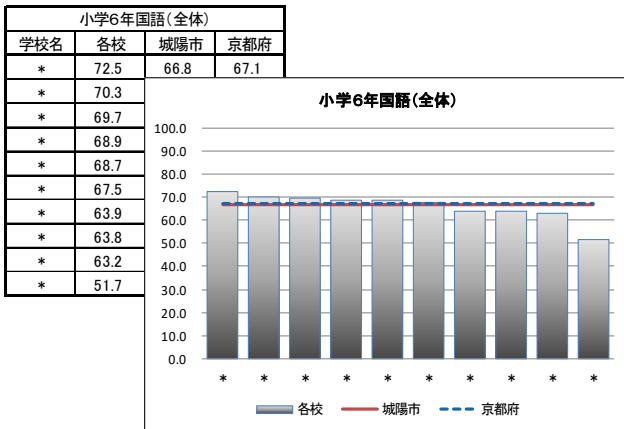


(5) 国語／小学6年

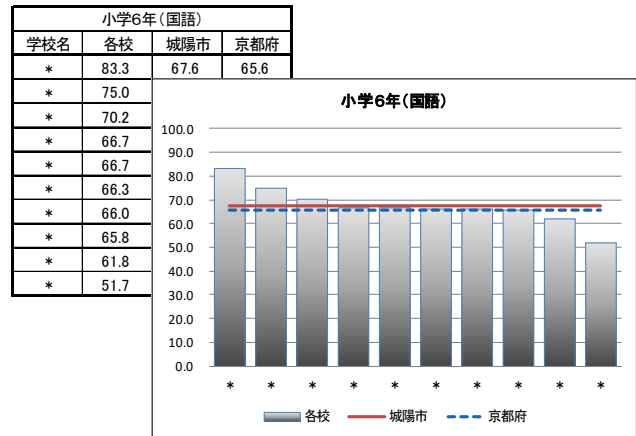
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.3ポイント下回りましたが、昨年度5年生時は府平均比△1.1ポイントだったことから、市全体としては国語の学力は向上傾向にあります。
- ・正答率が顕著に低い領域がある状況が見られます。正答率が顕著に低かった領域については改善するための具体的な手立てが求められます。6年生の内容だけでなく、これまでに学んだ言語事項を振り返りながら系統立てて理解を深める授業の展開や時間作りが必要です。

<結果の状況>

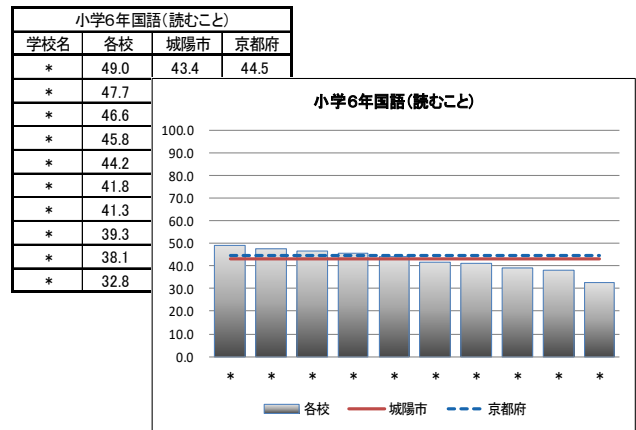
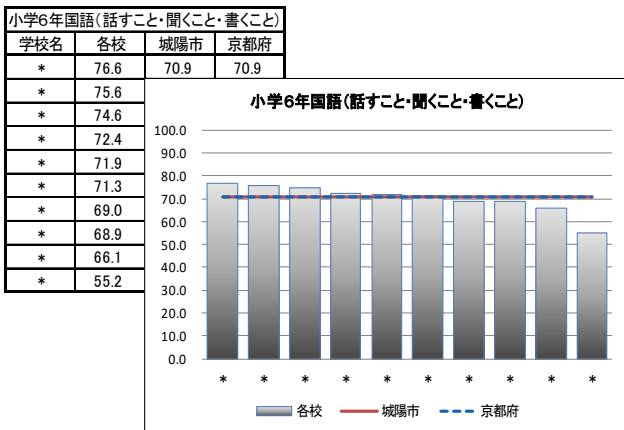
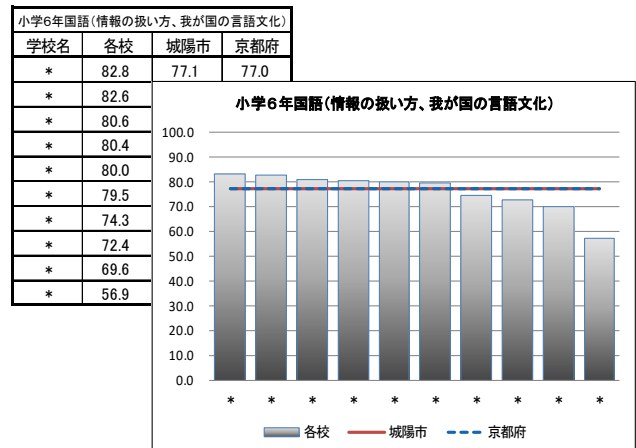
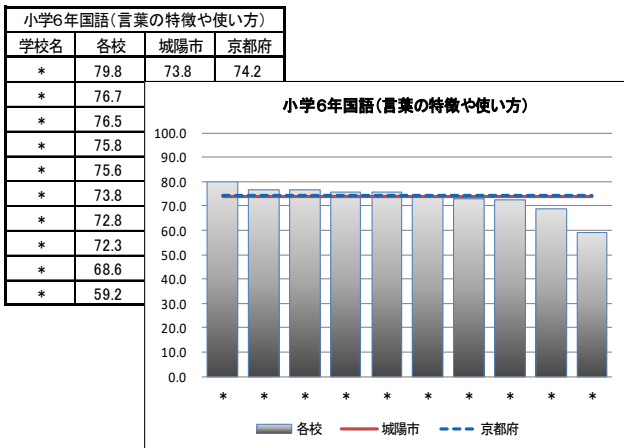
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】

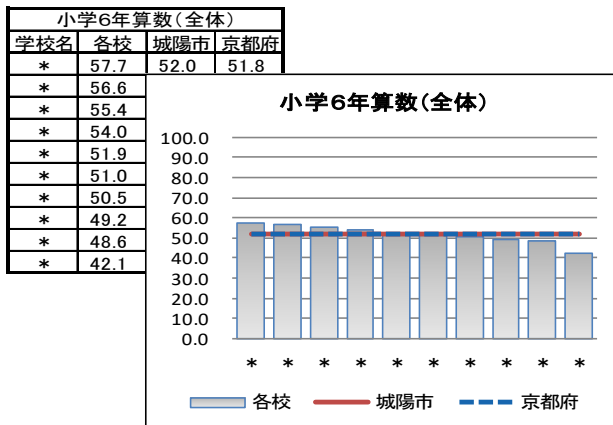


(6) 算数／小学6年

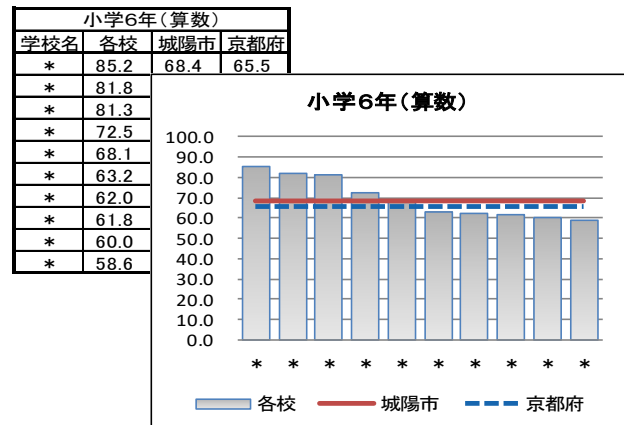
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.2ポイント上回りました。昨年度5年生時は府平均比△0.6ポイントだったため、学力の向上が大きく表れました。
- ・「全体」の正答率が低い学校には基礎基本を定着するための具体的な手立てが求められます。習熟のための時間の確保や支援する方法など、具体的な計画・目標を定めて適切に実行する必要があります。

<結果の状況>

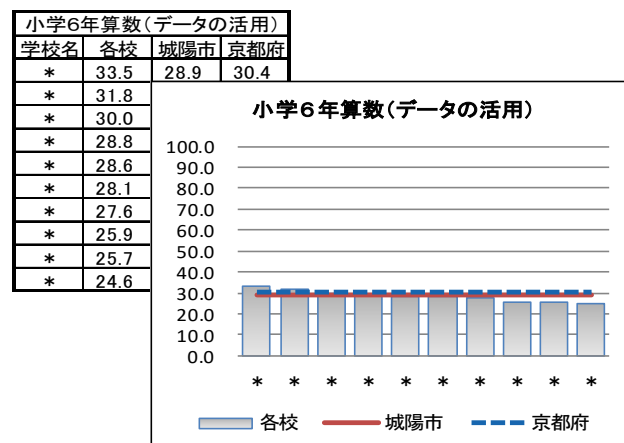
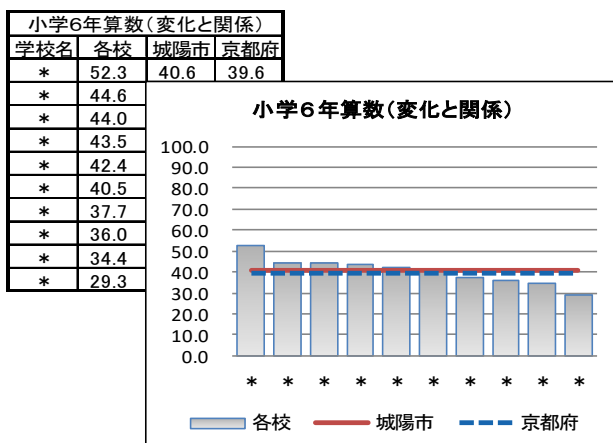
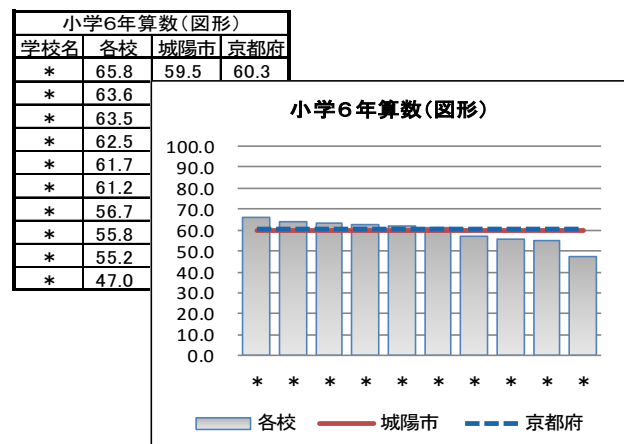
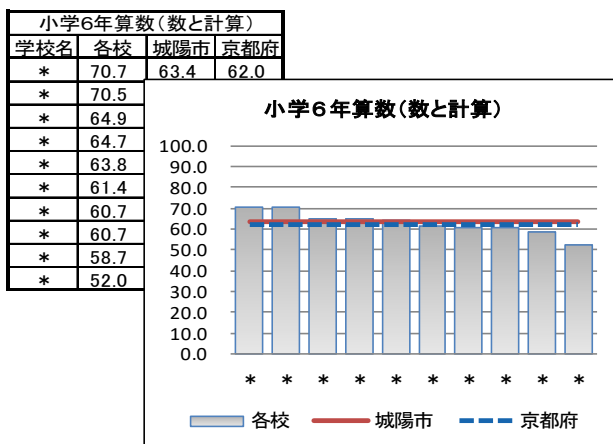
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】



(7) 国語／中学1年

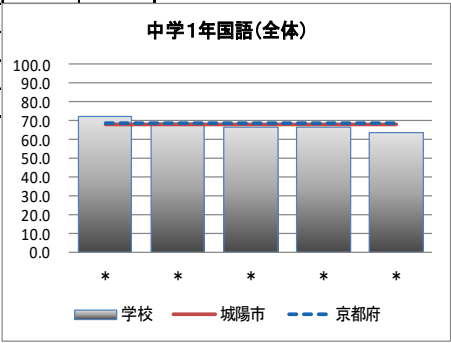
・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.6 ポイント下回りました。昨年度6年生時は府平均比△1.1 ポイントだったので、全体としてはやや向上しています。

・「情報の使い方、我が国の言語文化」や「読むこと」の領域で府平均と比較し5 ポイント以上差がついた学校においては改善が求められます。小学校の学習内容を網羅しながら、重点的に理解を深めさせる指導計画の立案・実施が求められます。

<結果の状況>

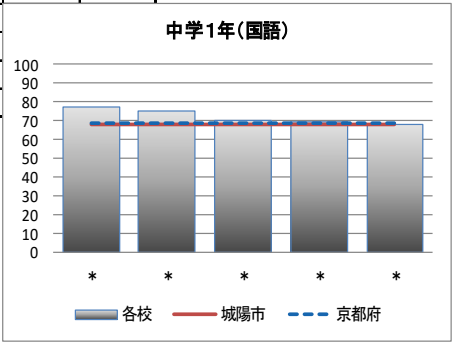
【全体の結果】

中学1年国語(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	72.6	67.8	68.4
*	68.7		
*	66.9		
*	66.8		
*	63.6		



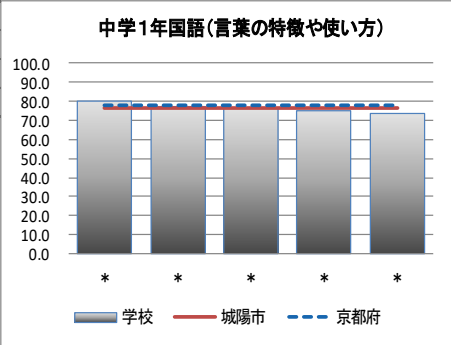
【学力が伸びた児童の割合】

中学1年(国語)			
学校名	各校	城陽市	府全体
*	77.2	72.3	71.0
*	75.0		
*	70.3		
*	69.4		
*	68.1		

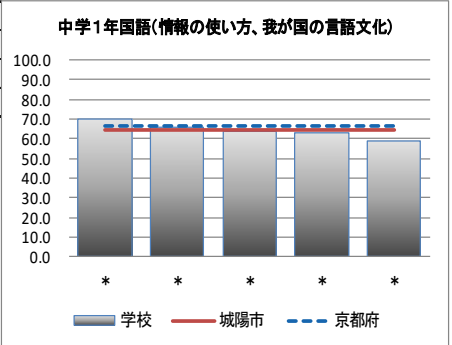


【領域別の結果】

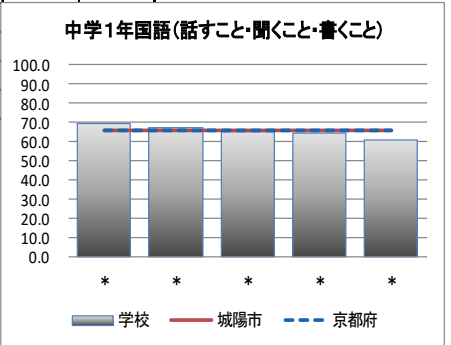
中学1年国語(言葉の特徴や使い方)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	80.2	76.5	77.8
*	77.2		
*	76.2		
*	74.8		
*	73.3		



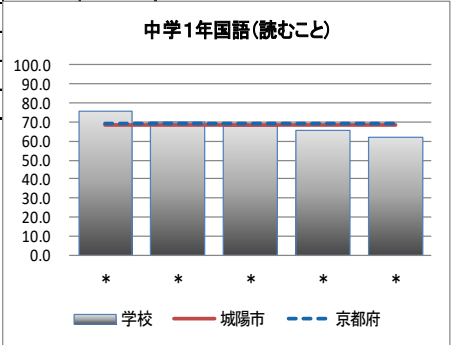
中学1年国語(情報の使い方、我が国の言語文化)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	69.8	64.6	66.3
*	65.9		
*	63.8		
*	62.7		
*	58.7		



中学1年国語(話すこと・聞くこと・書くこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	69.7	65.6	65.6
*	67.3		
*	65.1		
*	64.8		
*	61.0		



中学1年国語(読むこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	75.3	68.3	69.0
*	70.1		
*	67.9		
*	65.9		
*	61.8		



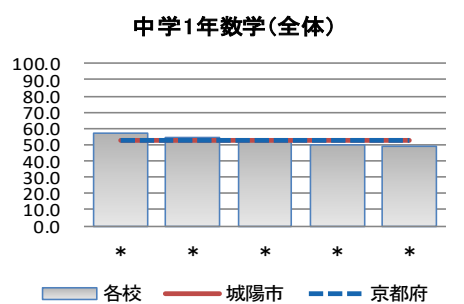
(8) 数学／中学1年

- ・「全体」では、京都府の平均と同等となりました。
- ・「データの活用」の領域において、府平均と比較して7.2ポイント下回った学校が見られます。小学校の学習内容での「データの活用」におけるつまづきを克服できていないことが考えられます。該当校には小学校高学年の算数における「データの活用」の領域の既習内容も意識しながら、今後の学習の中で「データの活用」の力を計画的に伸ばす指導が求められます。

<結果の状況>

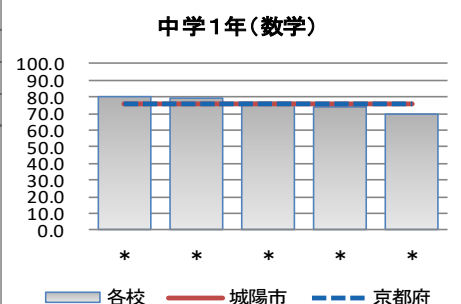
【全体の結果】

中学1年数学(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	57.5	53.0	53.0
*	54.8		
*	53.7		
*	50.4		
*	49.1		



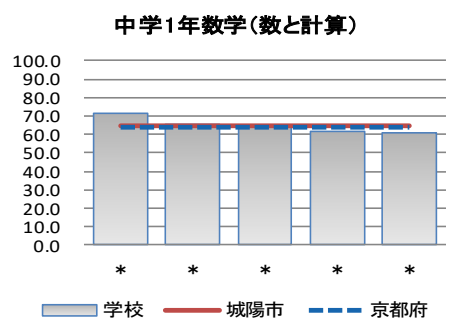
【学力が伸びた児童の割合】

中学1年(数学)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	80.4	76.0	76.0
*	79.5		
*	76.4		
*	73.9		
*	69.5		

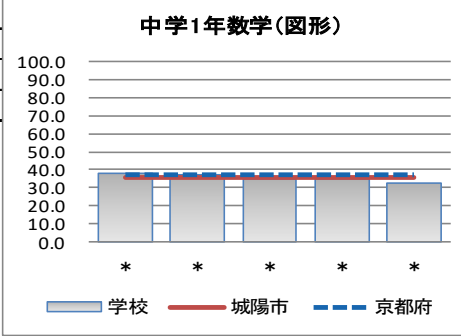


【領域別の結果】

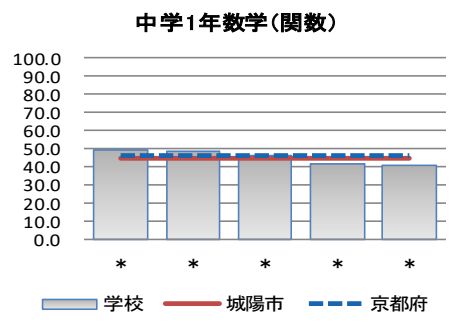
中学1年数学(数と計算)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	71.5	65.1	63.7
*	65.6		
*	65.0		
*	61.6		
*	61.3		



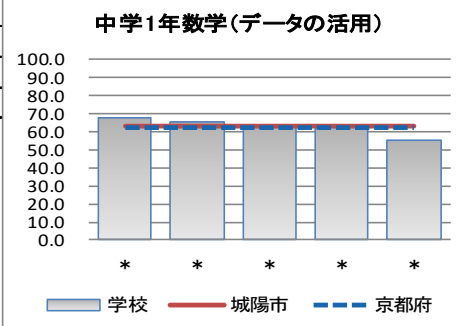
中学1年数学(図形)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	38.2	35.5	36.9
*	37.4		
*	35.0		
*	34.7		
*	32.4		



中学1年数学(関数)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	49.1	45.1	46.2
*	48.4		
*	46.6		
*	41.9		
*	40.9		



中学1年数学(データの活用)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	67.4	62.6	62.1
*	65.5		
*	63.9		
*	62.7		
*	54.9		

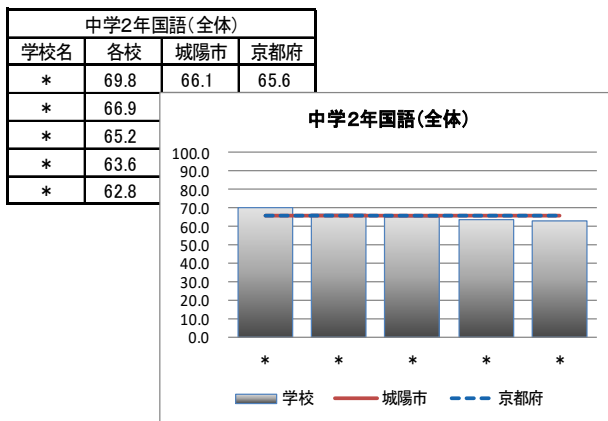


(9) 国語／中学2年

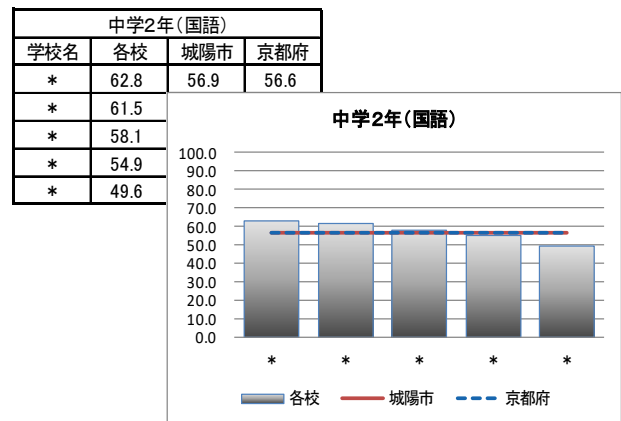
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.5ポイント上回りました。昨年度1年生時は府平均比△0.4ポイントだったので、全体として学力の向上が見られます。
- ・「領域別の結果」において「情報の扱い方、我が国の言語文化」の領域に課題のある学校が見られます。該当校には、自分の考えを形成し適切に表現する学習活動の充実と時間の確保、また、文学や伝統芸能への関心を高める機会の確保が求められます。

<結果の状況>

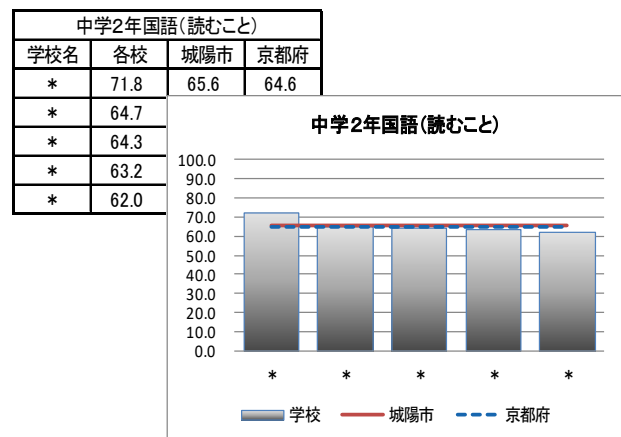
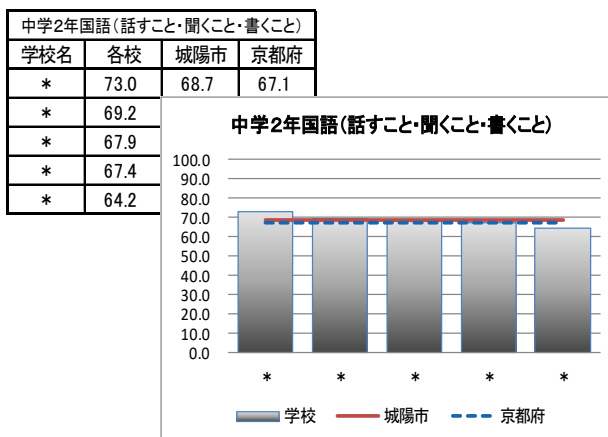
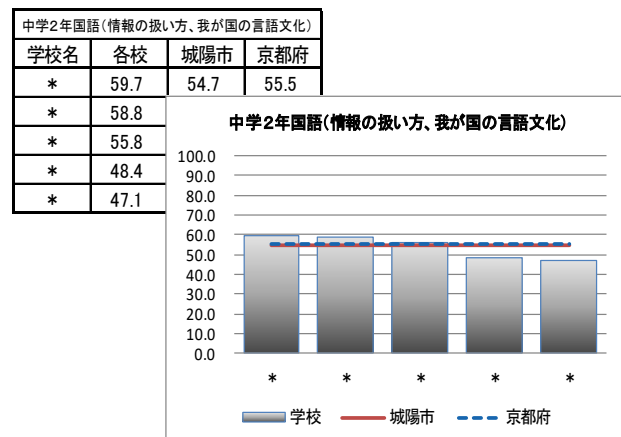
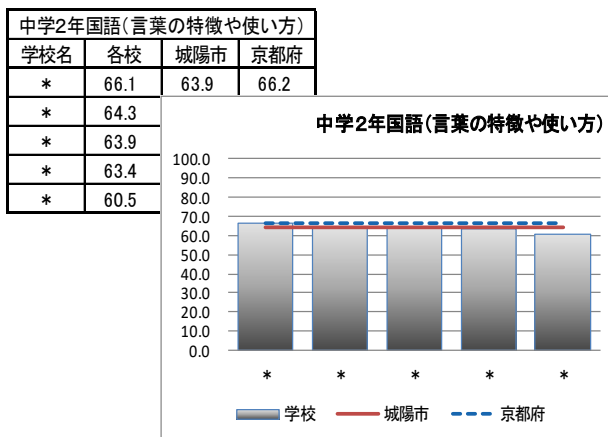
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】



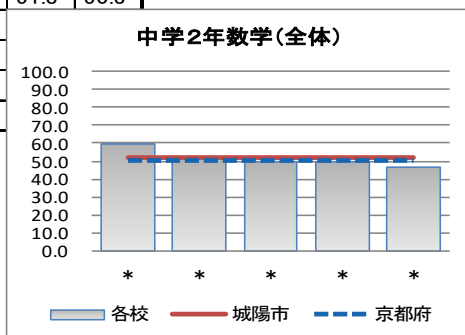
(10) 数学／中学2年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、1.5ポイント上回りました。
- ・「領域別の結果」では、全ての領域で京都府の平均を上回っていますが、「図形」と「データの活用」において課題が見られた学校があります。「図形」の領域も「データの活用」の領域も、物事の性質をとらえイメージする力が重要となる領域です。資料などに関心を持たせるとともに、その性質について、気付いたことを言語に表して理解を深める言語活動の充実が求められます。

<結果の状況>

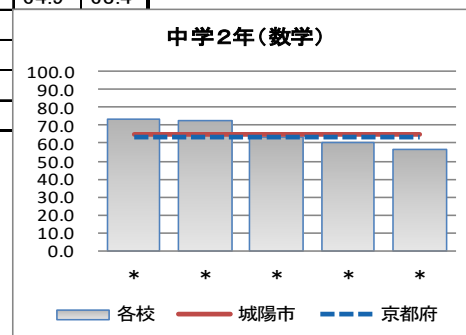
【全体の結果】

中学2年数学(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	59.4	51.8	50.3
*	51.2		
*	50.0		
*	49.9		
*	46.7		



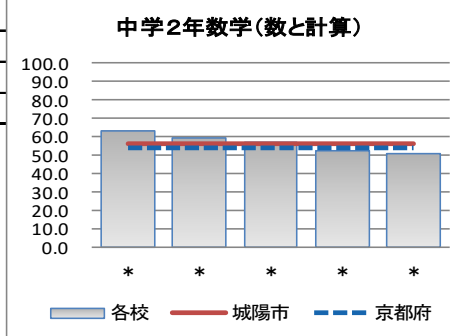
【学力が伸びた児童の割合】

中学2年(数学)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	73.2	64.9	63.4
*	72.4		
*	63.7		
*	60.3		
*	56.6		

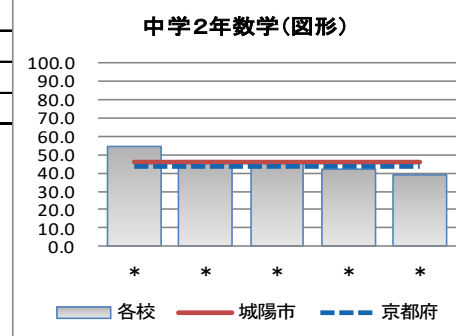


【領域別の結果】

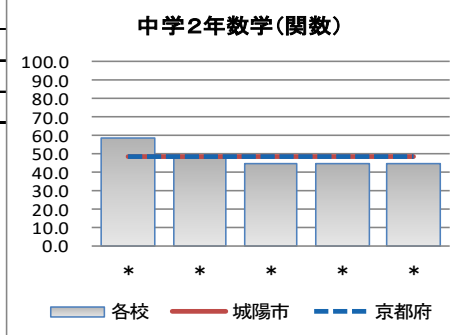
中学2年数学(数と計算)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	63.4	56.5	54.0
*	59.3		
*	56.7		
*	52.4		
*	51.1		



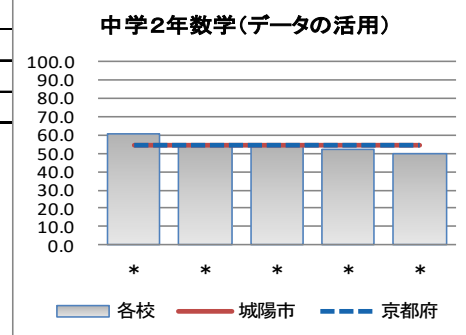
中学2年数学(図形)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	54.1	46.0	43.8
*	46.5		
*	45.7		
*	41.8		
*	38.5		



中学2年数学(関数)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	58.4	48.9	48.3
*	48.2		
*	44.9		
*	44.7		
*	44.4		



中学2年数学(データの活用)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	60.5	54.7	54.2
*	54.6		
*	54.4		
*	51.8		
*	49.8		

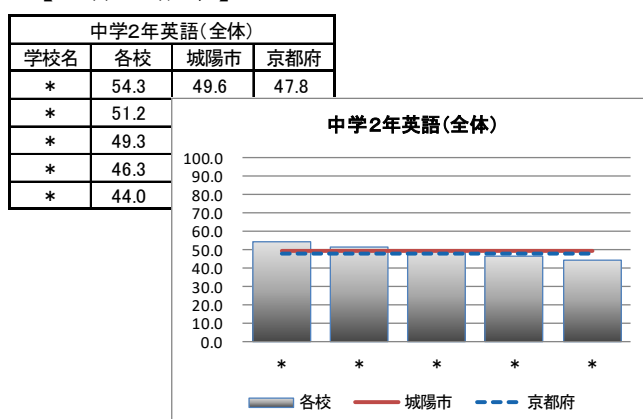


(11) 英語／中学2年

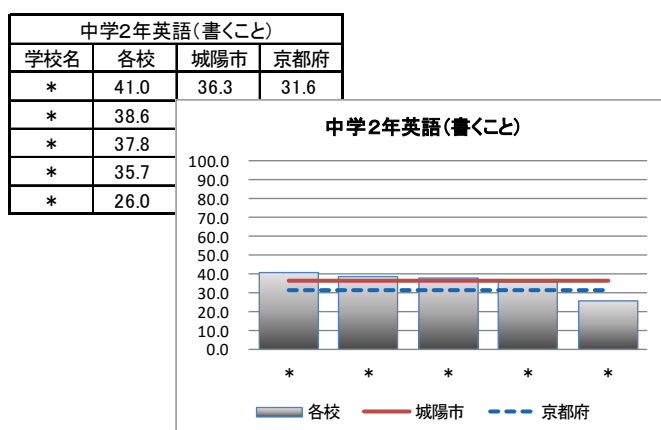
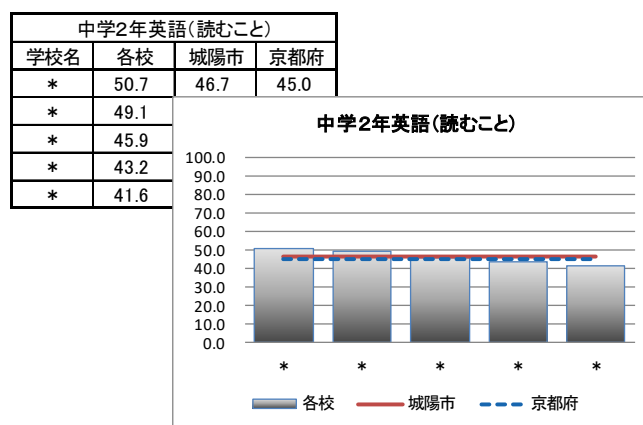
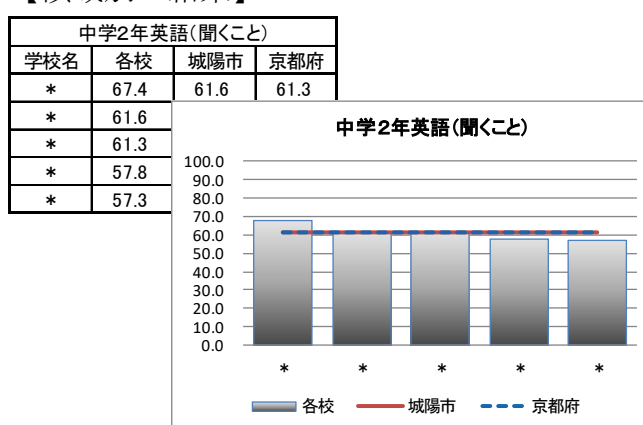
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、1.8ポイント上回りました。
- ・「領域別の結果」では、全ての領域で京都府の平均を上回っていますが、「書くこと」において課題が見られた学校があります。中学校英語では、単に語句を書き写すだけでなく、自分の考えをまとめ文章として表現する力が求められます。課題が見られた学校については、英単語や英文法の習得を促すとともに、短い文章から徐々に長い文章へと書く練習を粘り強く積み重ねることが求められます。

<結果の状況>

【全体の結果】



【領域別の結果】



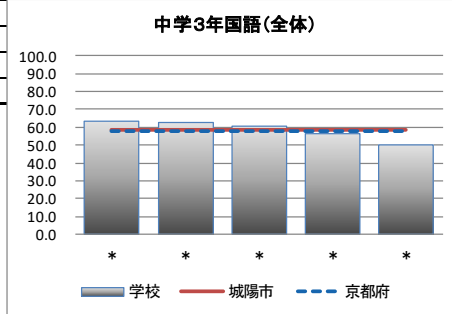
(12) 国語／中学3年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.9ポイント上回りました。昨年度2年生時は府平均比△1.1ポイントだったので、市全体として学力の向上が大きく表れました。
- ・「領域別の結果」では、全ての領域で京都府の平均と同等以上となっていますが、「情報の扱い方、我が国の言語文化」に課題が大きく表れた学校があります。府平均比が△13.7ポイントと差が大きいため、高校入試に向けて早急の対応が求められます。古典文学や近代文学作品に対する知識・技能を補充する時間を確保し、習熟させる必要があります。

<結果の状況>

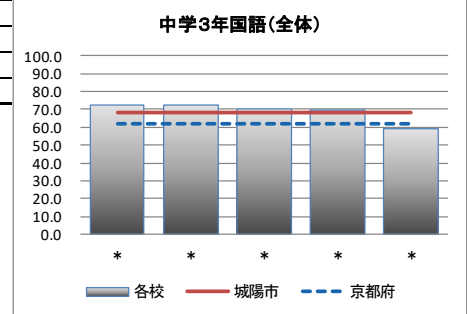
【全体の結果】

中学3年国語(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	63.4	58.4	57.5
*	62.4		
*	60.2		
*	56.6		
*	50.4		



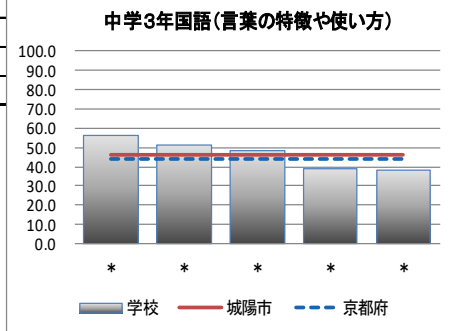
【学力が伸びた児童の割合】

中学3年(国語)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	72.4	68.5	62.0
*	72.2		
*	70.4		
*	69.7		
*	59.5		

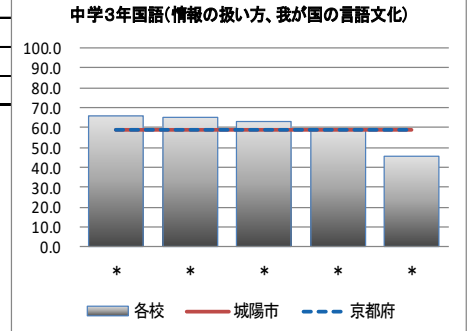


【領域別の結果】

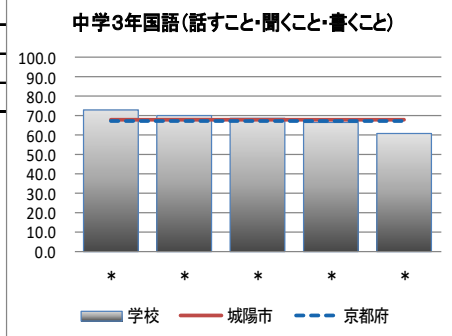
中学3年国語(言葉の特徴や使い方)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	56.1	46.0	44.3
*	51.0		
*	48.3		
*	38.8		
*	38.5		



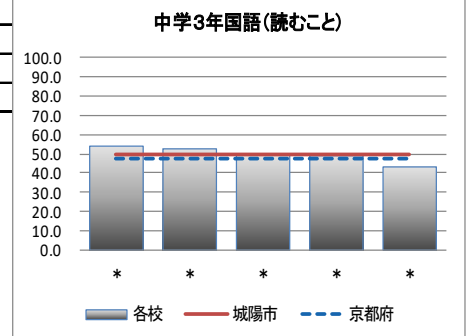
中学3年国語(情報の扱い方、我が国の言語文化)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	66.1	59.1	59.1
*	64.9		
*	62.7		
*	58.7		
*	45.4		



中学3年国語(話すこと・聞くこと・書くこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	72.8	67.7	67.2
*	69.9		
*	68.6		
*	66.5		
*	60.8		



中学3年国語(読むこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	54.0	49.4	47.7
*	52.6		
*	49.6		
*	49.0		
*	42.9		

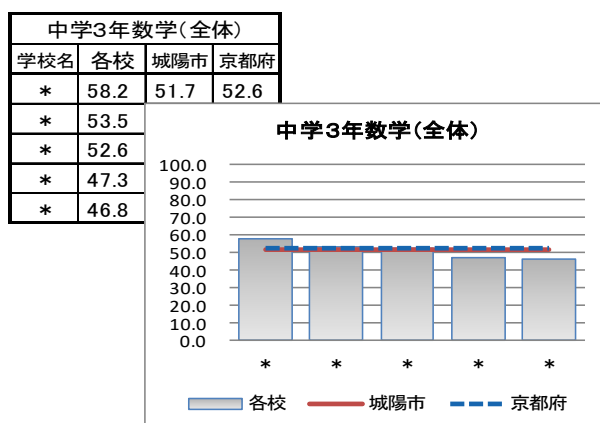


(13) 数学／中学3年

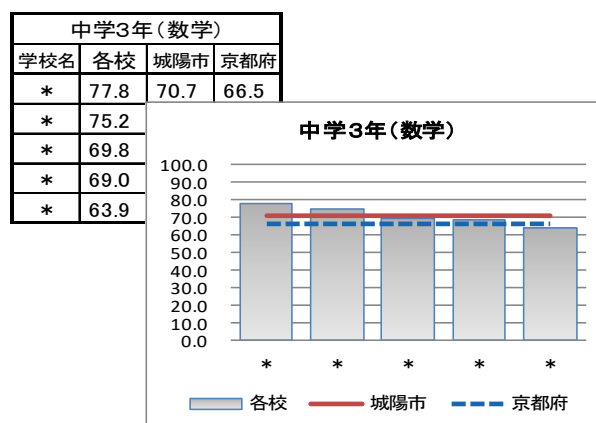
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.9ポイント下回りました。昨年度2年生時は府平均比△1.7ポイントだったので、市全体として学力はやや向上しています。
- ・「領域別の結果」から、「数と計算」の領域に課題が見られた学校があります。「数と計算」は数学の基礎技能の領域であるため、他の領域の力を育むためにも早急に改善する必要があります。単位を用いた具体的な数量の理解を深めたり、計算スキルを身につけたりするための習熟の機会確保が必要です。低位層の生徒へ具体的な指導計画を講じる必要があります。

<結果の状況>

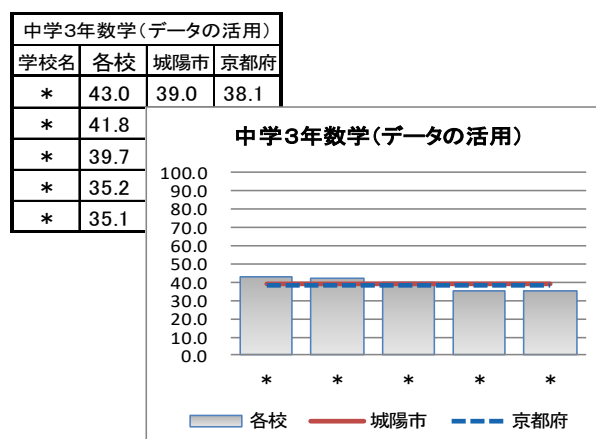
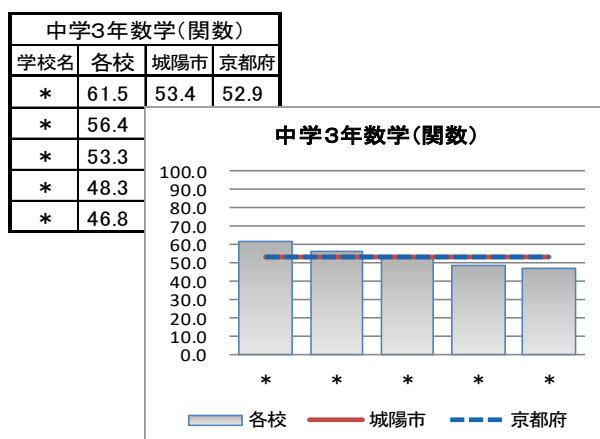
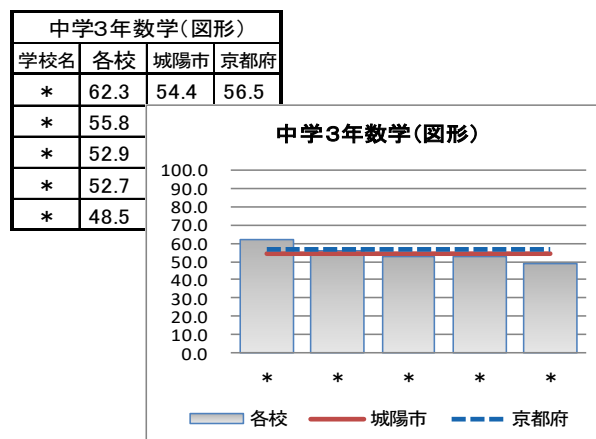
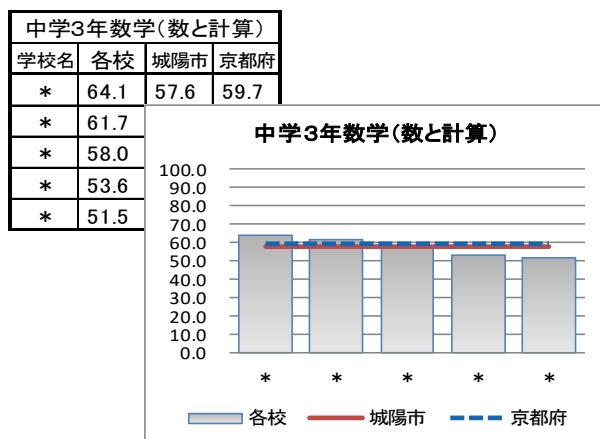
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】

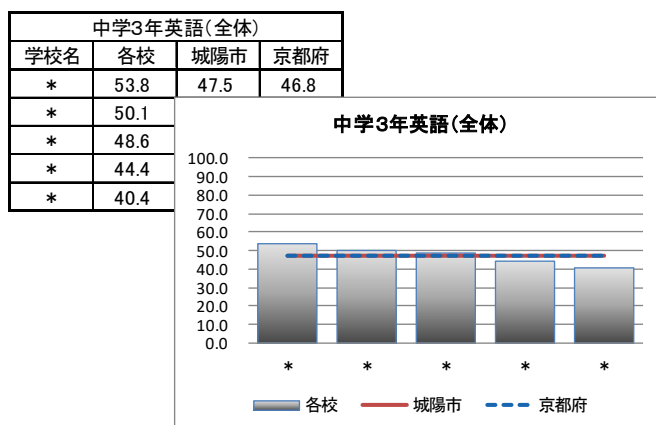


(14) 英語／中学3年

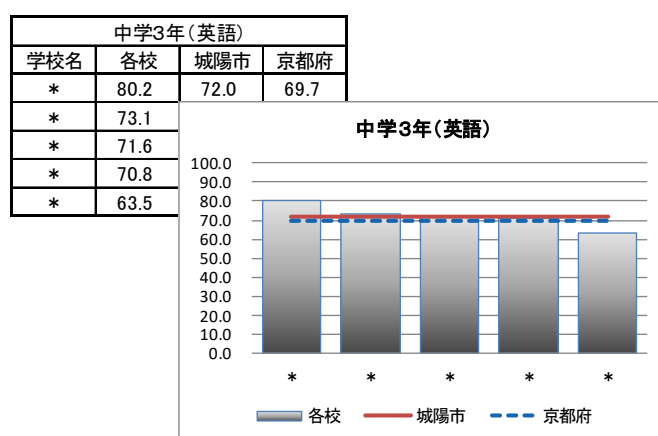
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.7ポイント上回りました。
- ・「領域別の結果」では、全ての領域で京都府の平均を上回っていますが、「読むこと」「書くこと」において課題が見られた学校があります。高校入試に向け、文章から必要な情報を早く見つけ出し、文章全体の概要を把握する読む練習、自分の考えをまとめて文章として書く練習を充実させる必要があります。生徒一人一人の習熟度に合わせた指導を行う補充計画を立て、きめ細かく対応することが求められます。

<結果の状況>

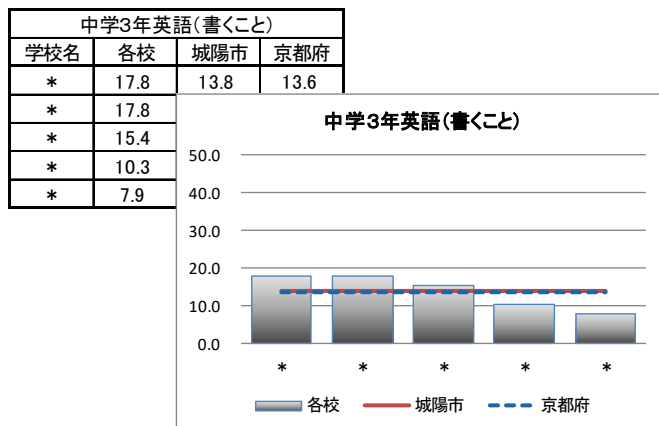
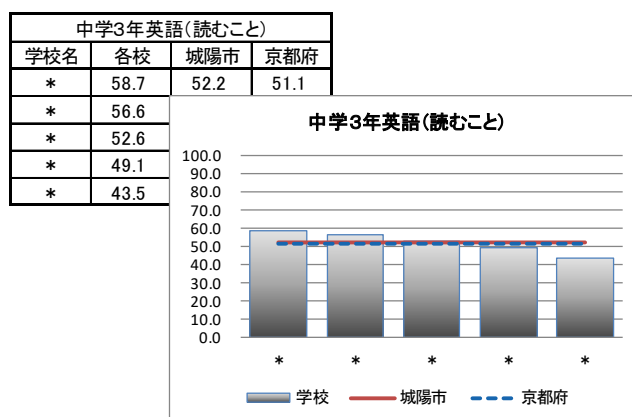
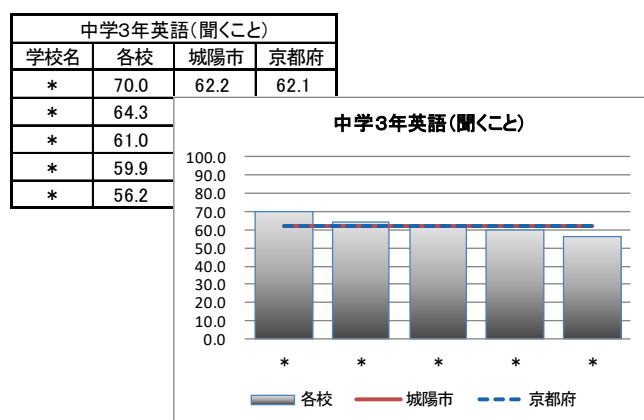
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】

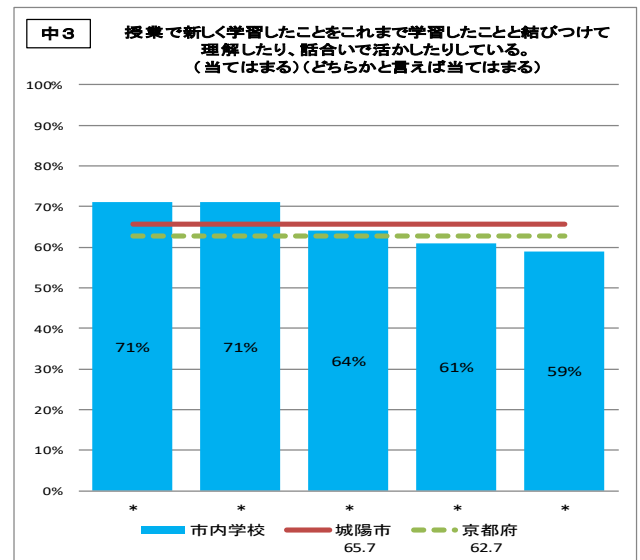
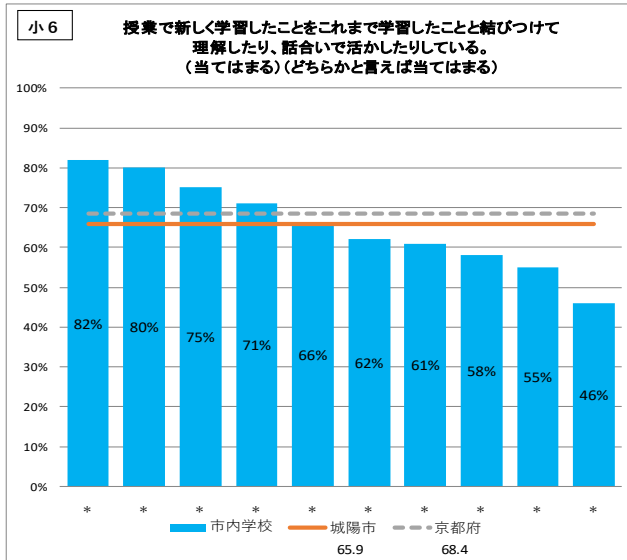
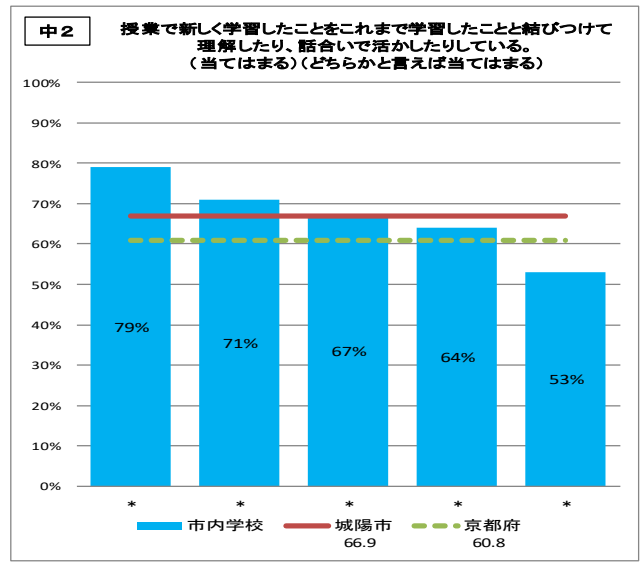
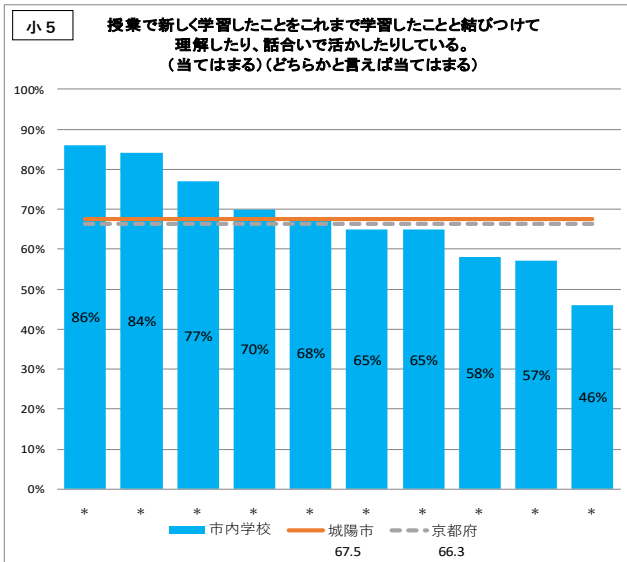
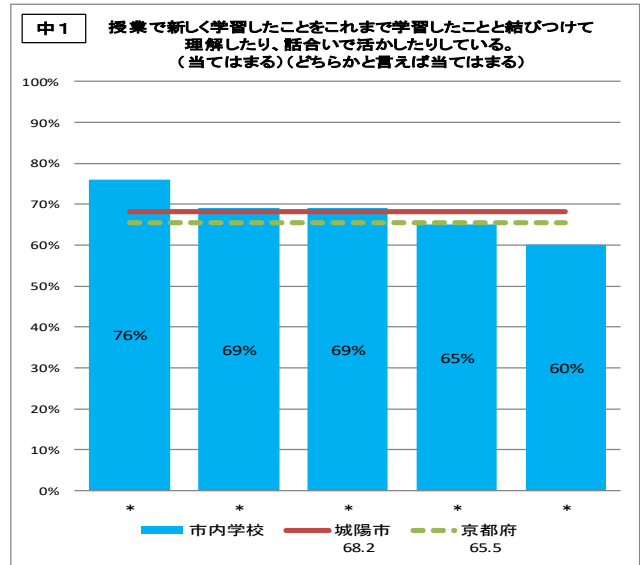
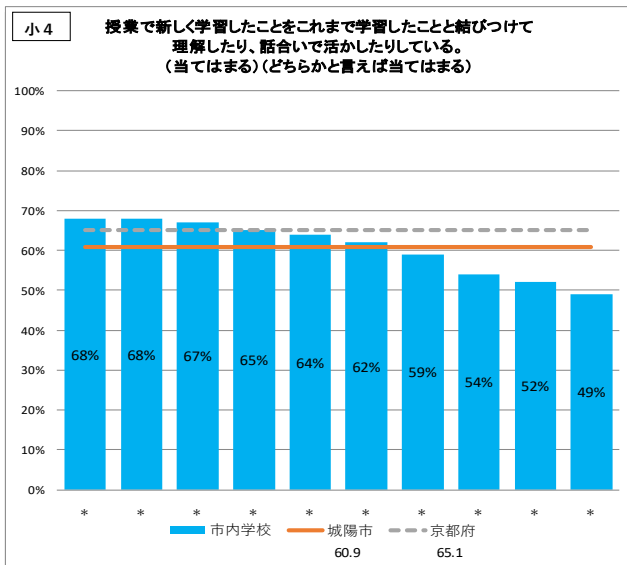


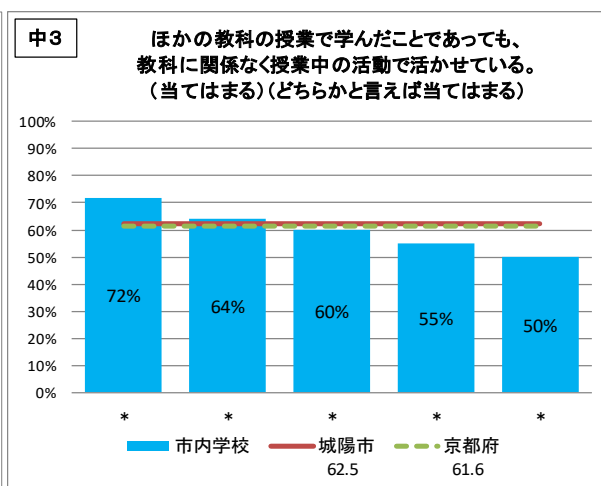
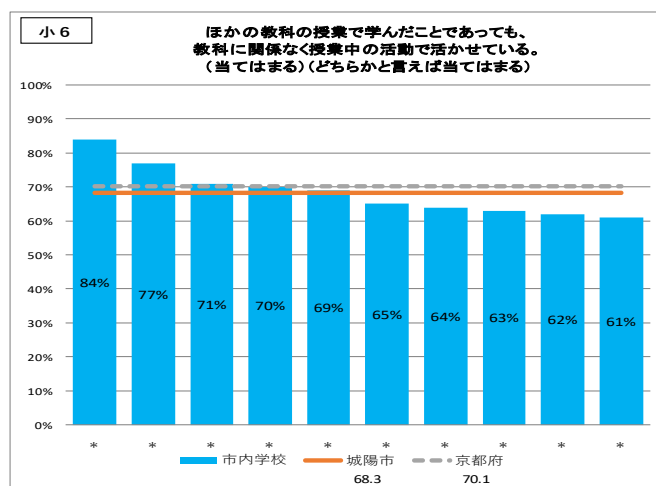
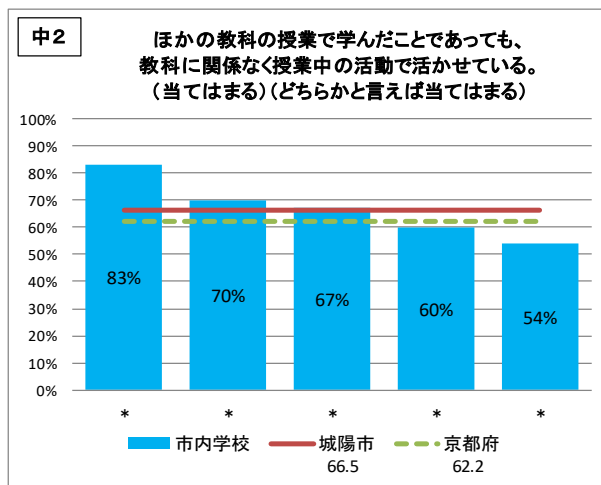
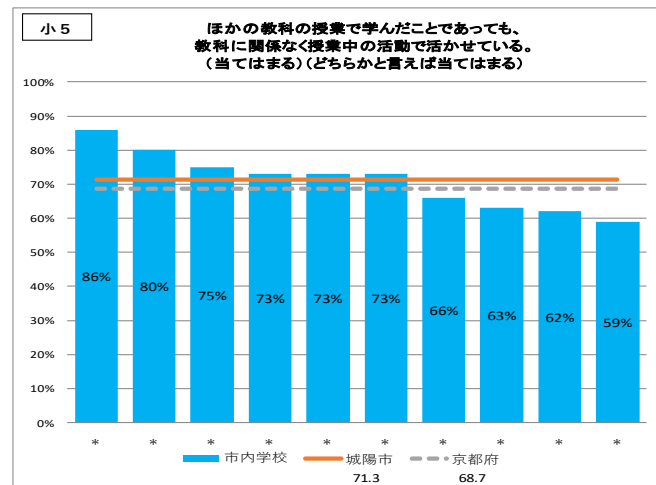
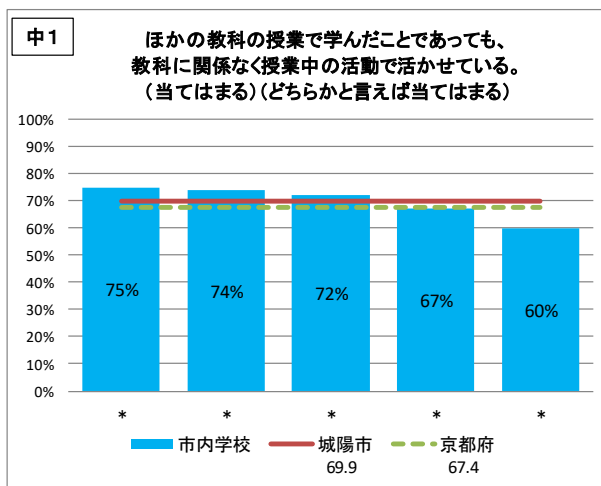
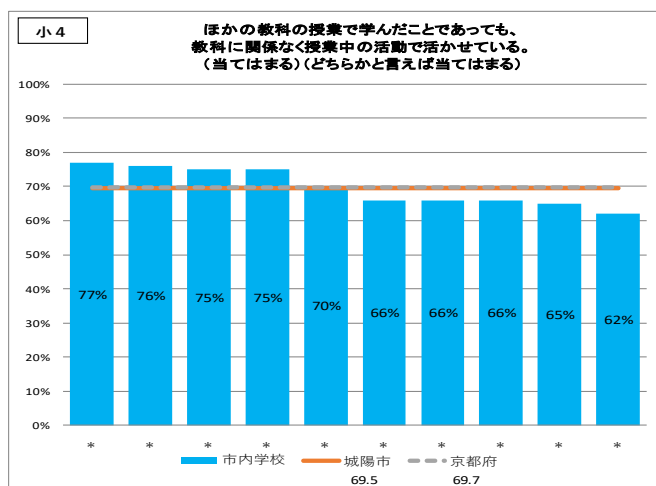
【領域別の結果】



6 質問調査の結果

(1) 授業について

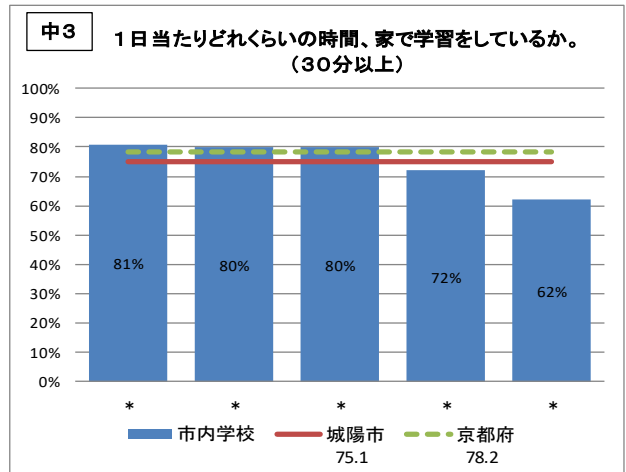
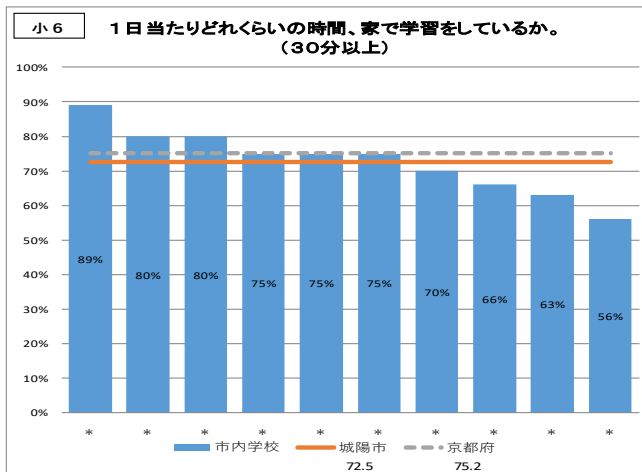
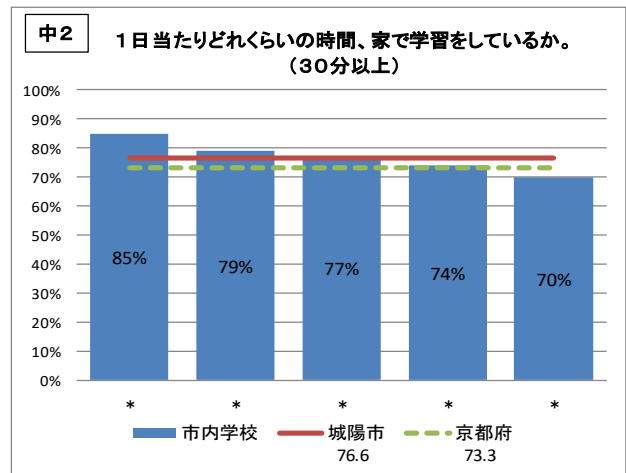
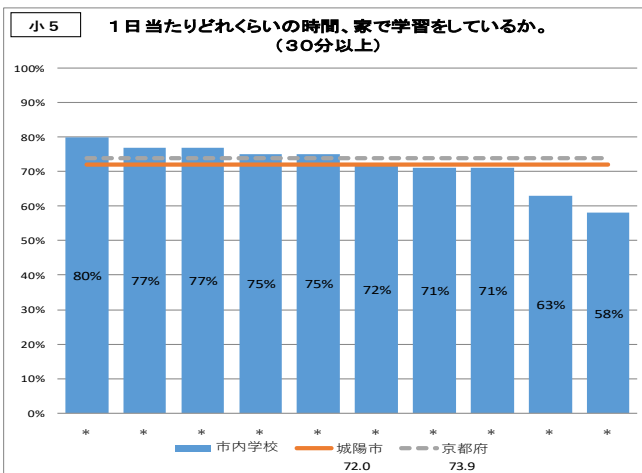
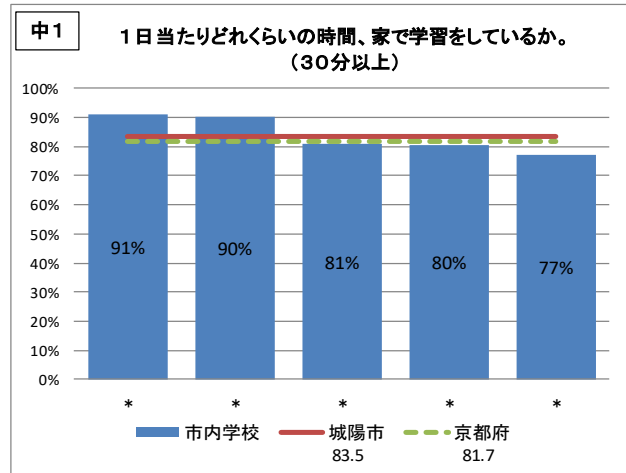
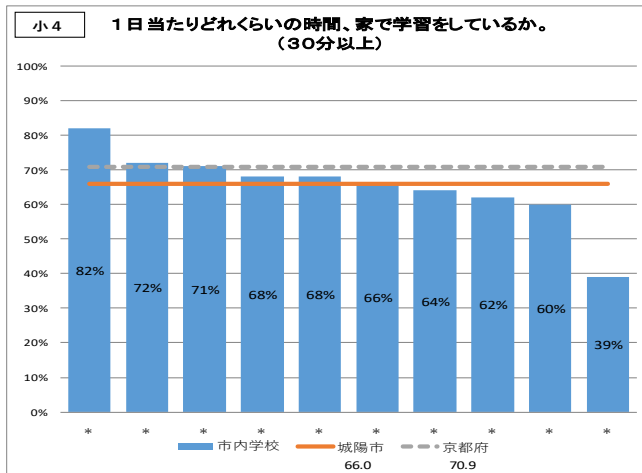




・活用力を問う上記の2つの設問に肯定的に答えた小学校児童の割合は5年生のみが府の平均を上回り、4年生と6年生については府の平均を下回りました。小学校は、他者と協働的に学ぶ授業スタイルを推進していますが、学んだことを活用する思考の習慣づけについては十分とはいえないので、教科横断的な学習指導の展開と推進が求められます。

一方、中学校においては上記の2つの設問に対して全ての学年で府の平均を上回りました。中学校においても協働的に学ぶ授業スタイルを推進しています。“関連づけて考える”授業の推進を今後も継続することで、深い学びを一層推進することが大切です。

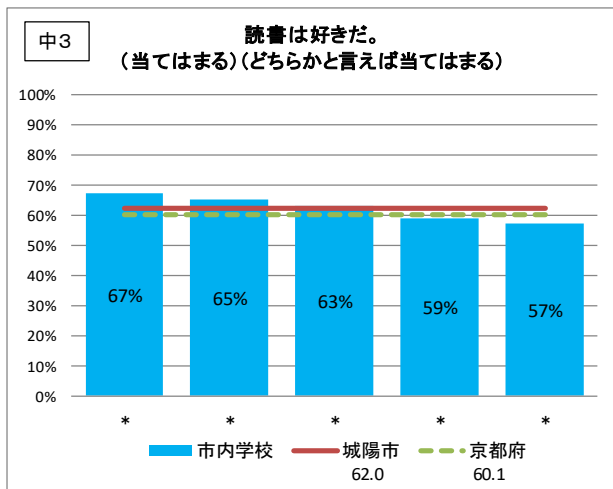
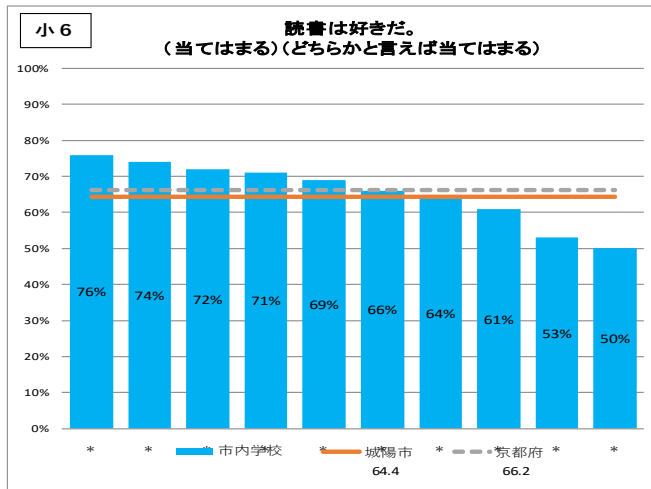
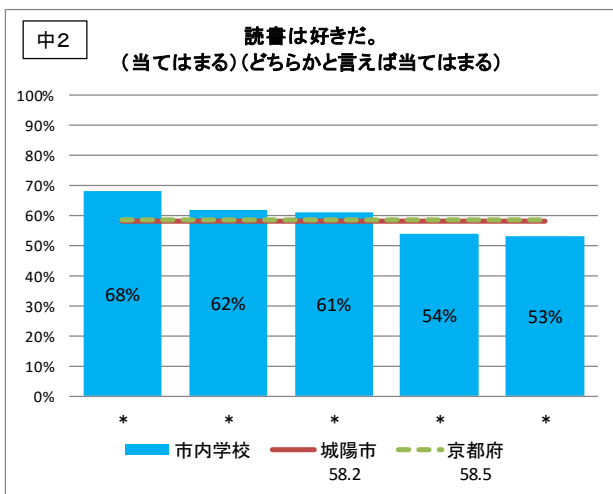
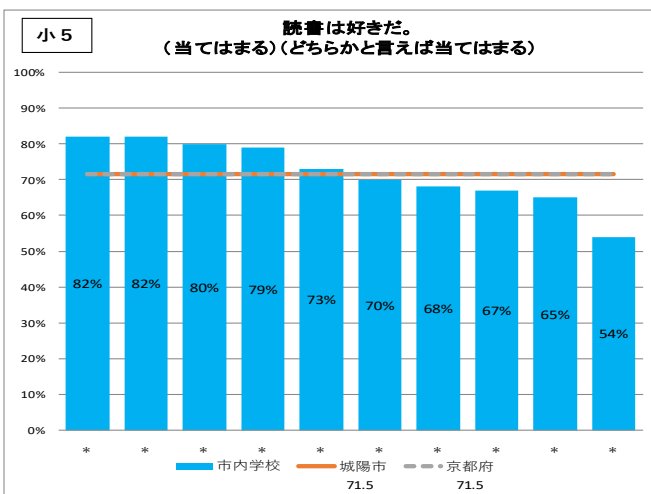
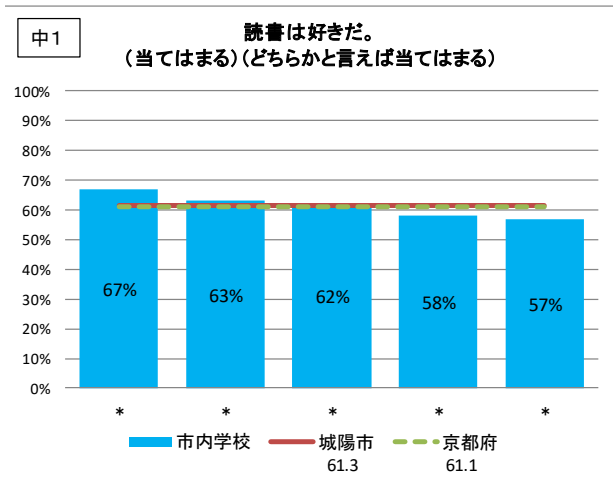
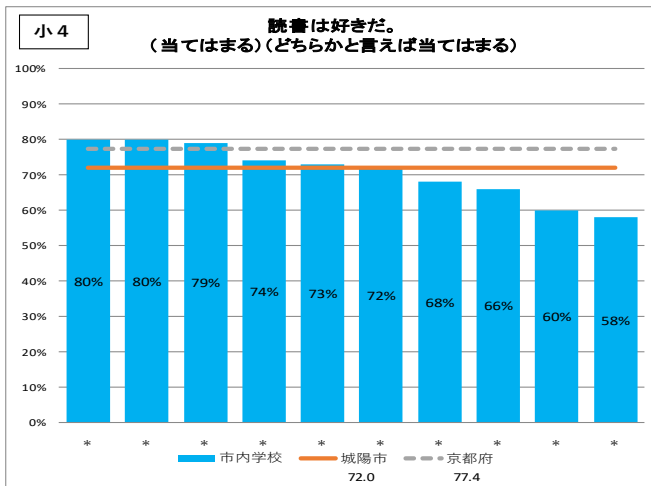
(2) 家庭学習について



・家庭学習の時間が「30分以上」と回答した割合は、中学校1年生と2年生は京都府の平均より高い割合となりましたが、他の学年については府の平均より低い結果となりました。家庭学習の習慣づけが求められます。

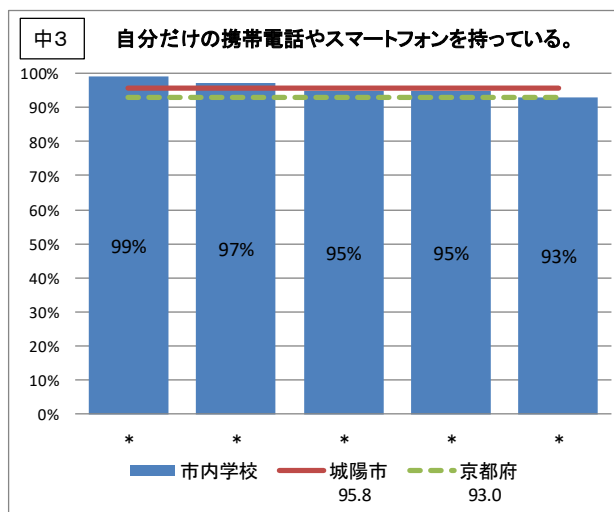
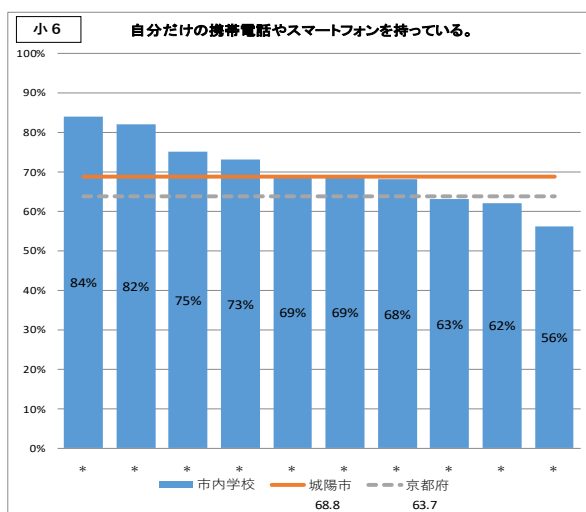
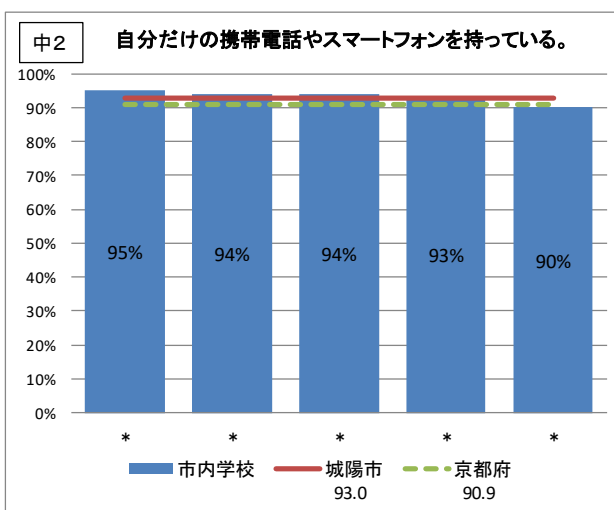
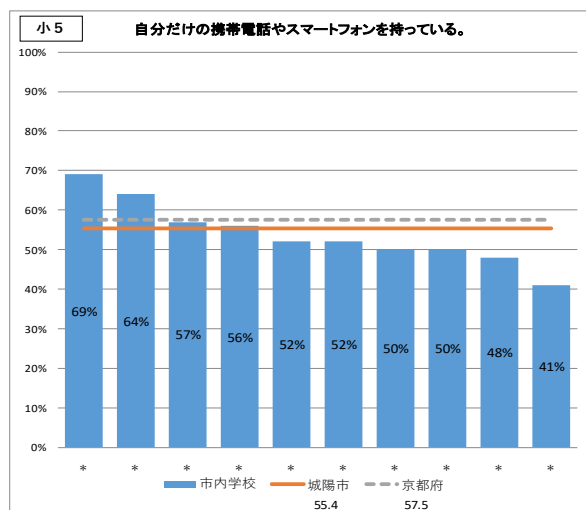
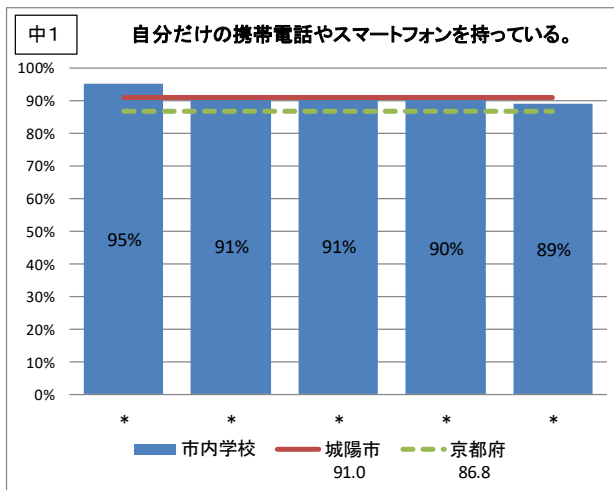
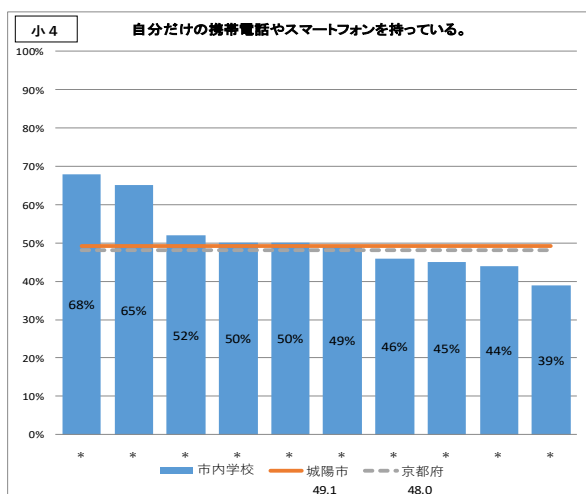
・児童生徒が計画的に学習できるようになるためには、学びに向かう力と学びを調整する力の育成が求められます。自主的な学習を推進するために各校が作成している「家庭学習の手引き」等を再度見直し、児童生徒が有効活用し家庭で実践できるような手立てを講じる必要があります。

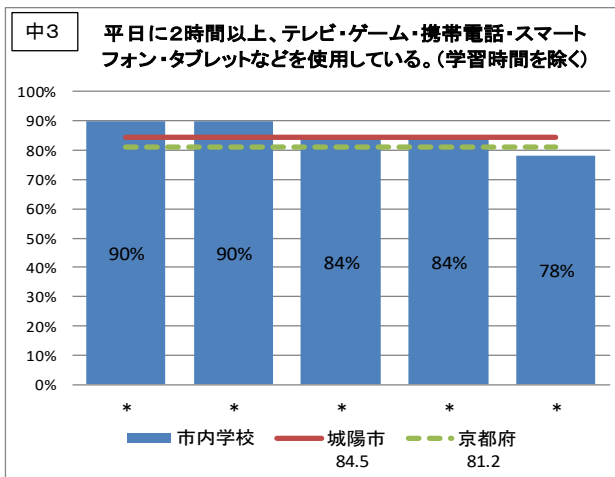
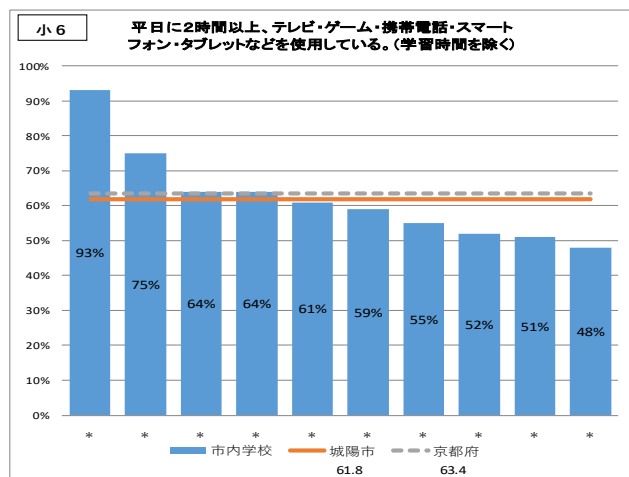
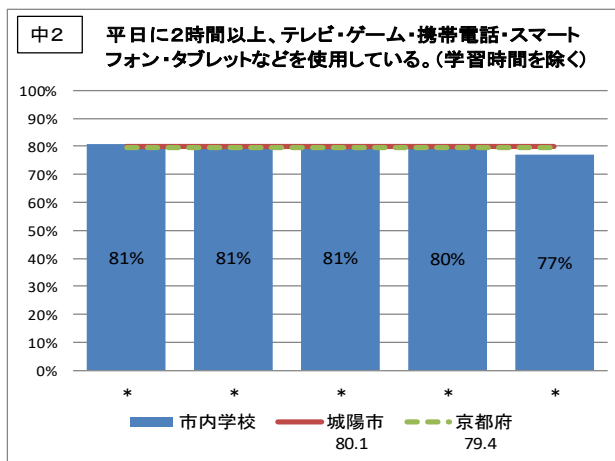
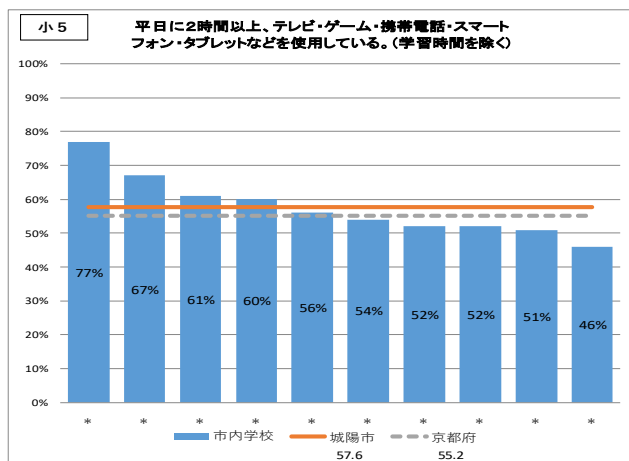
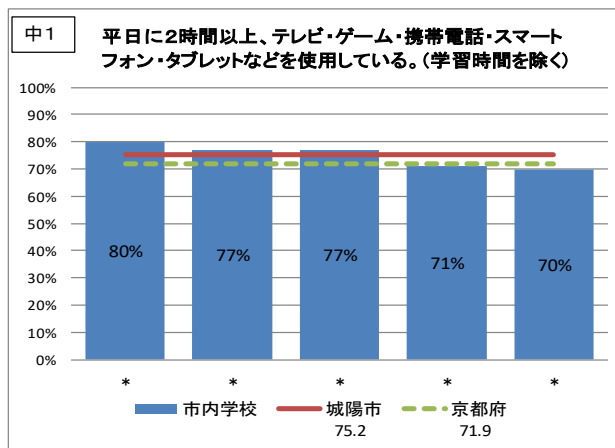
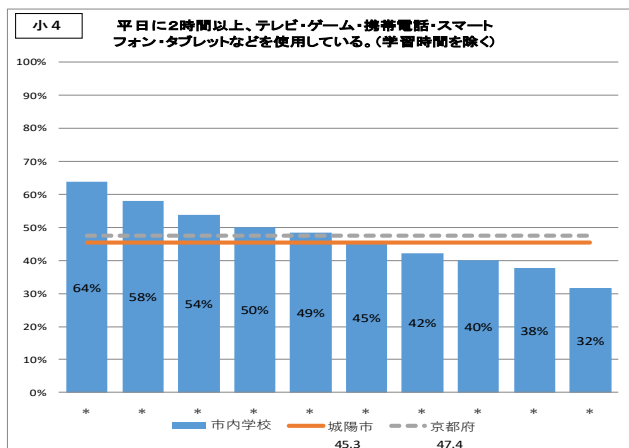
(3) 読書について



・「読書は好きだ。」の設問に肯定的に回答した割合は、半数の学年が京都府の平均と同等以上、半数の学年が京都府の平均を下回りました。読書は、読解力・語彙力・論理的思考力・集中力を高めます。特に、国語の「読むこと」の領域に課題が表れた学年・学校については、現行の読書活動推進に関する取組を見直し、児童生徒が読書に親しむ指導計画を構築するとともに、児童生徒の読書量を増やす取組が求められます。

(4) 携帯電話・スマートフォン等について





- ・児童生徒の携帯電話・スマートフォンの所持率は、昨年度と比べると全学年で高くなりました。中学生になると携帯電話・スマートフォンを所持する割合が高くなる傾向があります。
- ・今年度の結果では、携帯電話・スマートフォンの所持率・使用時間が長い児童生徒の割合が高い学校に、読書に対して肯定的に答える割合が低い傾向が見られました。
- ・どの学校においてもネット依存に陥らないよう、児童生徒の生活の実態を把握し、生活習慣を安定させることの大切さを継続して指導する必要があります。現在、各校で情報モラルを指導していますが、児童生徒に考えさせ学ばせると同時に、インターネット等に潜む危険から子どもたちを守る必要性を保護者向けに啓発することが求められます。